

F D活動報告書

第 16 号 (2020 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2021 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 2020 年度授業評価アンケートフォーム	7
III 2020 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2020 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要	11
(2) 2020 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要	43
(3) 2020 年度授業評価アンケート総括	75
IV 講演会	79

はじめに

会計専門職大学院である関西大学大学院会計研究科は、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計人」の養成を第一の目的としており、その目的達成のためには、すべての教員が教育の質を高め、教育効果が向上するよう心掛ける必要があります。また同時に、教育体制、カリキュラム等を常に研究科として見直しを行い、改善を行ってきました。これらの活動のひとつとして、FD(Faculty Development)活動があり、教務・FD委員会を中心として推進してきております。これらの活動を、このFD活動報告書によって報告するものであり、FD活動報告書は、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしています。

FD報告書に示される授業評価アンケートの結果は、本研究科が設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきている今年度の結果であり、それに対する各担当教員の見解を示しています。教育効果を向上させるための工夫は、個々の教員がよりよいと思う方法を授業に施していくだけでは充分ではありません。提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育を提供できるようになると考えられます。そのため、学生による授業評価アンケートは、FD活動の大きな柱の一つとなっています。

本研究科の授業評価の特徴として、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③教務・FD委員長による当該年度の教育内容全体に関する自己点検と総括がなされていること、ならびに④それらの結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられます。

今年度の特筆すべきことは、新型コロナウイルス感染及び蔓延防止対策として、関西大学の方針により、春学期は遠隔授業、秋学期は対面授業とされたことです。そして、常にコロナウイルスの感染状況をモニターしながら、時として不安の中で授業が継続されました。従来、教室で学生と対面しながら授業を行い、それによる教育効果の向上を模索し努力し続けてきた教員にとって、オンラインでの遠隔授業は大変不慣れなものであり、遠隔授業のためにどのような調整を施せばよいのか手探りで行うしかありませんでした。これらの工夫もまたFD活動として共有され、今後何らかの形で反映されることとなります。

今後も、FD活動を継続して行い、その結果をFD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育内容と水準を向上させ得ると同時に、社会的な評価の向上を期待できると確信しています。

2021年3月

会計研究科長 富田 知嗣

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2020年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。

授業評価アンケートは2020年度からオンライン方式（無記名）で実施しており、第14回目または第15回目の講義でQRコード付のアンケート依頼用紙を授業担当者が配付している。

オンライン方式で回答した内容はシステムで集計され、今後の授業内容および方法の改善のため、各授業担当者にフィードバックされる。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
導入科目群	選択科目	中級商業簿記	2	1	財務会計	春・秋	11・43
		中級工業簿記	2	1	管理会計	春・秋	12・44
基本科目群	必修科目	上級簿記論<上級簿記>	2	1	財務会計	春前	13・14
		上級財務会計論	2	1	財務会計	春後・秋	15・45
		上級原価計算論	2	1	管理会計	春前	16・17
		上級管理会計論	2	1	管理会計	春後・秋	18・46
		監査制度論	2	1	監 査	春後・秋	19・47
		監査基準論<監査基準>	2	1	監 査	春・秋	20・48
		企業法	2	1	法律・税務	秋	49
		会計専門職業倫理	2	2	監 査	春・秋	21・22・50
		会計基準論	2	1	財務会計	春	23
		会計制度論	2	1	財務会計	春	24
発展科目群	選択必修科目	財表作成簿記論<財表作成簿記>	2	1	財務会計	秋	
		戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	
		企業分析論	2	1	管理会計	秋	51
		監査実施論	2	1	監 査	秋	
		監査報告論	2	1	監 査	秋	52
		商取引法<商法>	2	1	法律・税務	春	
		会社法	2	1	法律・税務	秋	53
		民法<民法(総則・物権)>	2	1	法律・税務	秋	
		法人税法	2	1	法律・税務	春	25
		上級税務会計論	2	1	法律・税務	春	26
		経営学理論	2	1	経営・経済	春	
		経営戦略・組織論<経営戦略論>	2	1	経営・経済	秋	
		統計学	2	1	経営・経済	秋	
		ミクロ経済学	2	1	経営・経済	秋	
		特殊講義(コンサルティング実務)	2	1	横断科目	秋	
		特殊講義(公会計論)<公会計論>	2	1	横断科目	秋	
		特殊講義(会計検査制度論)	2	1	監 査	秋	
		特殊講義(BATIC演習)<BATIC演習>	2	1	経済・IT	秋	
		特殊講義(会計専門職業数学)	2	1	横断科目	春	
		特殊講義(IFRS演習)<IFRS実務>	2	1	財務会計	秋	
		特殊講義(公監査論)<公監査論>	2	2	行 政	不開講	
		特殊講義(民法(債権))<民法(債権)>	2	2	法 律	春	
		特殊講義(資本市場論)<資本市場論>	2	2	ファイナンス	春	27
		特殊講義(負債・資本金会計論) <負債・資本金会計論>	2	2	財務会計	春	28
		特殊講義(不正摘発監査論) <不正摘発監査論>	2	2	監 査	春	29
		特殊講義(国際監査事例研究) <国際監査事例研究>	2	2	監 査	秋	
		特殊講義(起業・株式公開事例研究) <起業・株式公開事例研究>	2	2	経 営	春	
		特殊講義(労務と会計)	2	1	横断科目	秋前	
		特殊講義(税務と会計)	2	1	横断科目	秋前	
		特殊講義(企業情報の読み方と使い方)	2	1	横断科目	不開講	
		特殊講義(ビジネス法務と会計)	2	1	横断科目	秋後	
		特殊講義(企業マネジメントと会計)	2	1	横断科目	春	30
		特殊講義(新規ビジネスの立上げと成長戦略)	2	1	横断科目	不開講	
		特殊講義(病院経営の勘どころ・日本経営グループ寄附講座)	2	1	横断科目	秋後	54

類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
発展科目群	選択必修科目	英文会計論	2	2	財務会計	秋	
		IFRS会計論＜国際会計基準論＞	2	2	財務会計	秋	55
		組織再編会計論＜企業結合会計＞	2	2	財務会計	秋	
		コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋	
		企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	秋	
		マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	春	
		内部監査論	2	2	監 査	春	
		国際監査基準論＜国際監査制度論＞	2	2	監 査	春	
		上級会社法	2	2	法律・税務	秋	56
		租税法理論	2	2	法律・税務	秋	57
		租税法会計論	2	2	法律・税務	秋	58
		国際税務論＜国際税務戦略論＞	2	2	法律・税務	春	31
		コーポレート・ファイナンス論	2	2	経営・経済	秋	59
		インベストメント論	2	2	経営・経済	春	32
		マクロ経済学	2	2	経営・経済	春	
応用・実践科目群	選択必修科目	基本会計プログラム演習	2	1	財務会計	秋	60
		会計事例研究	2	1	財務会計	春	33
		会社経理実務	2	1	財務会計	春	34
		管理会計事例研究	2	1	管理会計	冬集	
		監査事例研究	2	1	監 査	秋	61
		基本監査プログラム演習	2	1	監 査	春	35
		アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞	2	1	個別演習科目	通隔	62-64
		論文指導（導入）	2	1	個別演習科目	春	36-38
		論文指導（基礎） ＜論文指導・修士論文（基礎）＞	2	1	個別演習科目	秋	65-67
		実践会計プログラム演習	2	2	財務会計	秋	68
		IFRS事例研究＜国際会計事例研究＞	2	2	財務会計	春	
		ディスクロージャー実務	2	2	財務会計	春	39
		国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	春	
		実践監査プログラム演習	2	2	監 査	夏集	
		企業法判例演習	2	2	法律・税務	秋	
		税務事例研究＜上級税務戦略論＞	2	2	法律・税務	春	
		企業実践コミュニケーション ＜実践コミュニケーション＞	2	2	経営・経済	秋	
		プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートイズ＞	2	2	個別演習科目	通隔	69・70
		論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目	通年	71
総 括							75

※掲載対象科目は、2020年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

※< >は、2017年度以前入学生用カリキュラムの科目名称です。

Ⅱ．2020 年度授業評価アンケートフォーム

2020 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

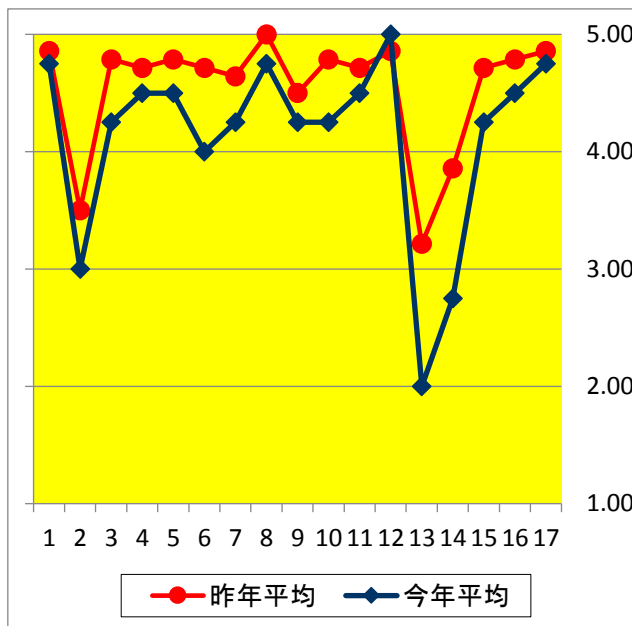
N0	質問内容	回答
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

— 以上 —

Ⅲ－(1)．2020 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	9	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.75	5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.79	4.25	4	5	4
4	4.71	4.50	4・5	5	4
5	4.79	4.50	4・5	5	4
6	4.71	4.00	4	5	3
7	4.64	4.25	4	5	4
8	5.00	4.75	5	5	4
9	4.50	4.25	4	5	4
10	4.79	4.25	4	5	4
11	4.71	4.50	4・5	5	4
12	4.86	5.00	5	5	5
13	3.21	2.00	2	2	2
14	3.86	2.75	2	5	2
15	4.71	4.25	4	5	4
16	4.79	4.50	4・5	5	4
17	4.86	4.75	5	5	4
回答者数	14	4			



受講生の傾向

受講生は1年次生で、簿記の習熟度が低い学生が多かった。例年と異なり、コロナ禍での授業としてZoomと関大LMSを利用したが、突然の対応を迫られたため、教員も受講生もその機能を熟知しているわけではなく、操作も不慣れであった。Zoomでの授業は教員にとって初めてのことであり、受講生の理解度や授業中の課題への取組みを十分に確認することはできなかった。受講生にとっても、Zoomでの授業は初めての経験であり、分からない問題や学習方法等を気軽に質問することができない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は対面授業であり、個別の質問対応を重視して、全員の理解を一人ずつ確認して回った。しかし、今年度は、コロナ禍での授業としてZoomと関大LMSを利用した。Zoomでの授業は、この授業の例年の講義展開にとって大きな制約であった。とくに、教員は、受講生が課題に取り組んでいる様子を確認することができず、そのことが受講生側では緊張感や学習意欲の低下につながったと考えられる。これは、質問13(予習時間)と14(復習時間)のポイントが低いことに端的に示されている。また、昨年平均のポイントの方が全体的に高いことから、昨年度の対面授業が受講生のニーズに合致していること、逆に言えば、今年度のZoomでの授業が受講生のニーズに合致していないことが分かる。さらに、アンケートの回収率が例年より悪いことから、オンライン授業はモラルの低下をもたらしている可能性もある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

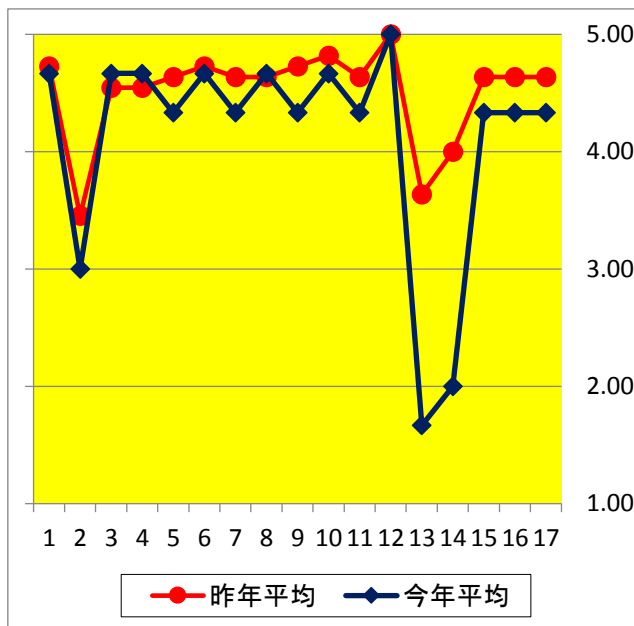
この講義は、受講生の大半が留学生であり、日本語の理解力にも個人差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。今年度の受講生の多くは極めて真面目であり、授業中も授業時間外でも意欲的に課題に取り組んでいたように感じられる。自学自習の習慣も、授業が進むに連れて次第に身に付いていった。講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

Zoomでの授業は、教員も受講生も初めてのことであり、操作が不慣れであることや、個別対応が難しいこと、相当程度のITスキルが求められること、また、端末の性能や通信環境の問題等から、教員側の理解させたいという気持ちと、受講生側の理解したいという気持ちが噛み合わず、空回りしているように感じた。授業評価アンケートの結果が全体的に低下していることから、この授業の特性としては、オンライン授業よりも対面授業の方が受講生のニーズに合致していると考えられる。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	中級工業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春木5
受講者数	9	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.67	5	5	4
2	3.45	3.00	3	3	3
3	4.55	4.67	5	5	4
4	4.55	4.67	5	5	4
5	4.64	4.33	4	5	4
6	4.73	4.67	5	5	4
7	4.64	4.33	4	5	4
8	4.64	4.67	5	5	4
9	4.73	4.33	4	5	4
10	4.82	4.67	5	5	4
11	4.64	4.33	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.64	1.67	2	2	1
14	4.00	2.00	2	2	2
15	4.64	4.33	4	5	4
16	4.64	4.33	4	5	4
17	4.64	4.33	4	5	4
回答者数	11	3			



受講生の傾向

この講義は、中級程度の工業簿記に関する知識の習得を目的とする導入科目群科目のひとつである。受講生は真面目に出席していた。2020年度の春学期は新型コロナウイルスの影響により、オンデマンドおよびリアルタイム遠隔講義による授業を実施した。そのため、例年とは授業運用方法を大きく変更した。受講生は、全体としてはオンライン講義に対応できたものと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度とは異なり、2020年度春学期は、新型コロナウイルスの影響に伴って、オンデマンド講義およびリアルタイム遠隔講義を行った。したがって、今回の講義では、講義スライド、練習問題、および提出課題をオンライン対応とするなど前年から大きく変更した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

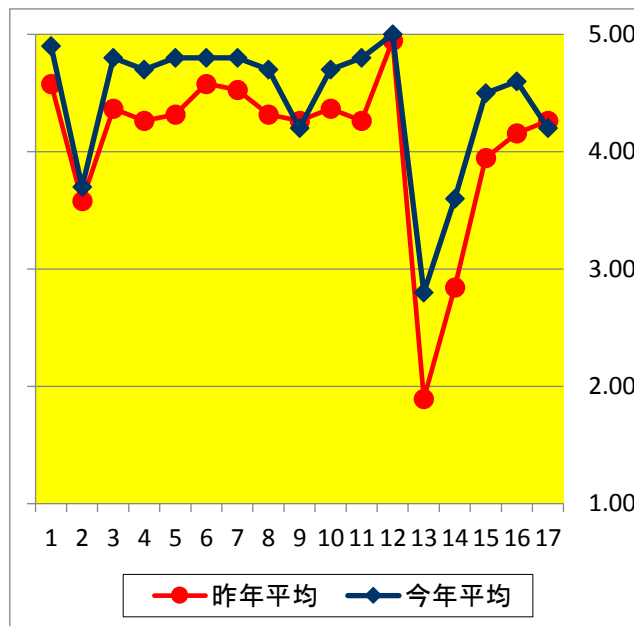
本年度も昨年度と同様に、全体としては高い評点を獲得することができた。また、受講生の復習の時間が大きく改善した点は、良い傾向であると評価している。したがって、次年度も、本年度と同様の取り組みを継続することが重要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義方法を前年から大きく変更したにもかかわらず、受講生からはおおむね講義計画に沿った授業が行われたという評価を受けた。しかしながら、複数の項目で評価が減少していることから、講義方法をさらに改善する必要があると考えられる。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	15	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.90	5	5	4
2	3.58	3.70	3	5	3
3	4.37	4.80	5	5	4
4	4.26	4.70	5	5	4
5	4.32	4.80	5	5	4
6	4.58	4.80	5	5	4
7	4.53	4.80	5	5	4
8	4.32	4.70	5	5	2
9	4.26	4.20	5	5	2
10	4.37	4.70	5	5	3
11	4.26	4.80	5	5	4
12	4.95	5.00	5	5	5
13	1.89	2.80	3	4	1
14	2.84	3.60	3	5	1
15	3.95	4.50	5	5	3
16	4.16	4.60	5	5	3
17	4.26	4.20	4・5	5	3
回答者数	19	10			



受講生の傾向

A1クラスの受講生は、1年次生で構成されている。例年と異なり、コロナ禍での授業としてZoomと関大LMSを利用したが、突然の対応を迫られたため、教員も受講生もその機能を熟知しているわけではなく、操作も不慣れであった。Zoomでの授業は教員にとって初めてのことであり、受講生の理解度や授業中の課題への取組みを十分に確認することはできなかった。受講生にとっても、Zoomでの授業は初めての経験であり、分からない問題や学習方法等を気軽に質問することができない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、昨年度と同様に、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)を意識するように指導した。しかし、今年度はZoomでの授業であり、対面授業のように板書して理解を促すことができないため、もっぱら口頭での説明によらざるを得なかった。また、対面授業のように全員の理解を一人ずつ確認して回ることもできなかった。そのため、ゆっくりと説明したり、繰り返し説明するなど、丁寧な説明を心掛けた。授業評価アンケートの結果は、昨年よりも全体的に低いと予想していたが、予想に反して高くなっている。また、今年のA2クラスと比べても全体的に高くなっている。2つのクラスで差が生じた原因は不明であるが、丁寧に説明することのほか、追加資料を用意したり、PCのツールを随時使用するなど、色々工夫したことが受講生の共感を得たのかもしれない。あるいは、A1クラスは1年次生のみで構成されていることから、Zoomでの授業に新鮮味を感じていた可能性もある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

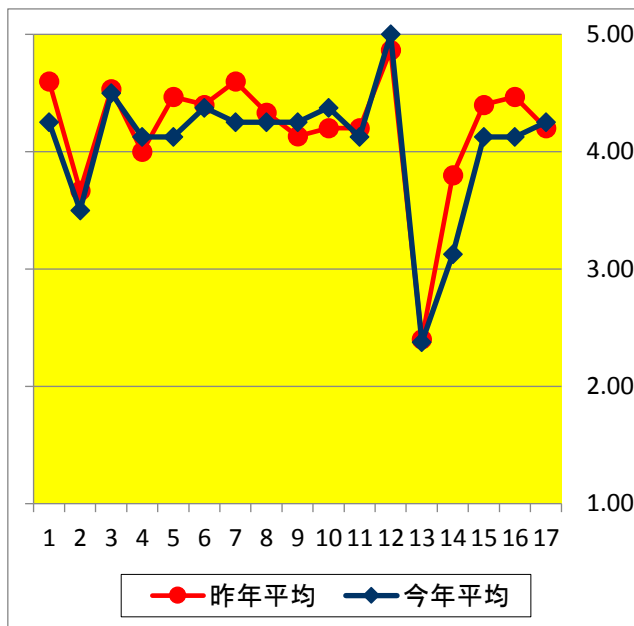
この授業は、4月初から5月末のクォーターで展開される科目である。この時期に、短答式の受験勉強や就職活動に時間を費やす学生も多い。そのため、授業の勉強時間が少ないことには、やむを得ないところもある。しかし、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートの結果は、昨年度の対面授業よりも今年度のオンライン授業の方が高くなっているが、だからといって、オンライン授業の方がよいと判断するのは早計である。成績で比べてみると、今年度の成績は、授業評価アンケートの高さに見合うだけの結果を残せていない。教育効果の観点からすれば、この授業の特性としては対面授業の方がよいだろう。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	上級簿記論＜上級簿記＞(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	19	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.25	4	5	4
2	3.67	3.50	3	5	3
3	4.53	4.50	4・5	5	4
4	4.00	4.13	4	5	3
5	4.47	4.13	4	5	3
6	4.40	4.38	4	5	4
7	4.60	4.25	4	5	4
8	4.33	4.25	4	5	4
9	4.13	4.25	4	5	3
10	4.20	4.38	4	5	4
11	4.20	4.13	4	5	3
12	4.87	5.00	5	5	5
13	2.40	2.38	2	3	2
14	3.80	3.13	3・4	4	2
15	4.40	4.13	4	5	3
16	4.47	4.13	4	5	3
17	4.20	4.25	4	5	4
回答者数	15	8			



受講生の傾向

A2クラスの受講生は、1年次生と2年次生以上（ほぼ全員が再履修の学生）で構成されている。例年と異なり、コロナ禍での授業としてZoomと関大LMSを利用したが、突然の対応を迫られたため、教員も受講生もその機能を熟知しているわけではなく、操作も不慣れであった。Zoomでの授業は教員にとって初めてのことであり、受講生の理解度や授業中の課題への取り組みを十分に確認することはできなかった。受講生にとっても、Zoomでの授業は初めての経験であり、分からない問題や学習方法等を気軽に質問することができない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、昨年度と同様に、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)を意識するように指導した。しかし、今年度はZoomでの授業であり、対面授業のように板書して理解を促すことができないため、もっぱら口頭での説明によらざるを得なかった。また、対面授業のように全員の理解を一人ずつ確認して回ることもできなかった。そのため、ゆっくりと説明したり、繰り返し説明するなど、丁寧な説明を心掛けた。また、追加資料を用意したり、PCのツールを随時使用するなど、色々工夫した。授業評価アンケートの結果は、昨年と比べると概ね同じであるが、今年のA1クラスと比べると全体的に低くなっている。2つのクラスで差が生じた原因は不明であるが、A2クラスは再履修の2年次生以上が多く受講しており、彼らは昨年に対面授業を経験していることから、Zoomでの授業に少なからず不満を感じていたのかもしれない。あるいは、A2クラスのアンケートの回収率が悪いことが関係している可能性もある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

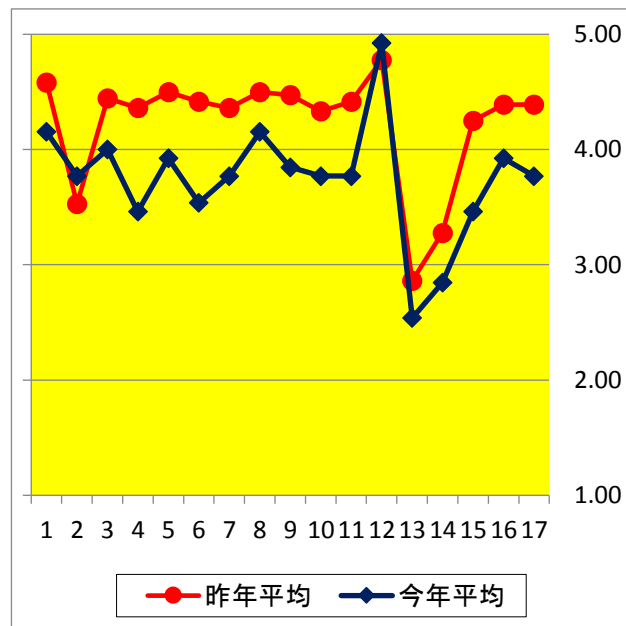
この授業は、4月初から5月末のクォーターで展開される科目である。この時期に、短答式の受験勉強や就職活動に時間を費やす学生も多い。そのため、授業の勉強時間が少ないことには、やむを得ないところもある。しかし、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートの結果は、昨年度の対面授業と今年度のオンライン授業で大差はないが、だからといって、どちらの講義形態でも同じであると判断するのは早計である。成績で比べてみると、今年度の成績は昨年度と比べて芳しくない。教育効果の観点からすれば、この授業の特性としては対面授業の方がよいだろう。次年度は、例年どおり、対面授業によることとしたい。

科 目	上級財務会計論(A)			
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2	
受講者数	29	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.15	4	5	3
2	3.53	3.77	4	5	3
3	4.44	4.00	4	5	2
4	4.36	3.46	4	5	2
5	4.50	3.92	5	5	2
6	4.42	3.54	4	5	1
7	4.36	3.77	4	5	2
8	4.50	4.15	4	5	3
9	4.47	3.85	4	5	2
10	4.33	3.77	4	5	2
11	4.42	3.77	4	5	2
12	4.78	4.92	5	5	4
13	2.86	2.54	3	5	1
14	3.28	2.85	3	5	1
15	4.25	3.46	4	5	2
16	4.39	3.92	4	5	3
17	4.39	3.77	4	5	2
回答者数	36	13			



受講生の傾向

今年度春学期の受講生にとって、コロナ禍による講義開始の遅れ、オンデマンド授業からのオンラインによるライブ授業、オンラインによる小テスト及び最終試験など、戸惑うことが多かったと想像される。また、従来の対面方式による講義形態からオンラインによる講義に変更されたことによる、講義資料や講義資料の提示などの調整が不十分であったことから、講義の進捗速度が速いと感じたり、講義に不満を感じたりしているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と講義形態が異なり、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて工夫することは難しい。対面と同様となるように一部資料をオンラインでの講義用に変更したり、課題実施を試みたが、調整が不十分であったことは否めない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

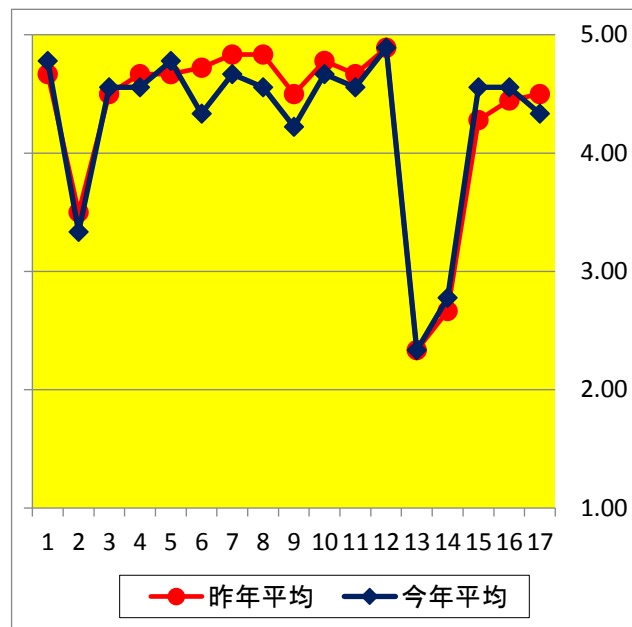
評価結果が昨年度より悪化し、一昨年度より良好であることを踏まえると、講義内容や実施方法の方向性は変化させる必要がないように思われるため、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

原則として対面での講義に戻るため、今年度のアンケート結果を踏まえた改善は難しいが、オンラインでの講義で試行錯誤した部分を対面での講義にも取り入れ、より効果的な資料の提示や予習・復習用の課題提示を行っている予定である。また、昨年度同様に、受講生の学習意欲がより高くなるよう、講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より深く正確な理解を促すような講義展開を行うつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	18	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.78	5	5	4
2	3.50	3.33	3	4	3
3	4.50	4.56	5	5	3
4	4.67	4.56	5	5	3
5	4.67	4.78	5	5	4
6	4.72	4.33	5	5	2
7	4.83	4.67	5	5	4
8	4.83	4.56	5	5	3
9	4.50	4.22	5	5	2
10	4.78	4.67	5	5	3
11	4.67	4.56	5	5	3
12	4.89	4.89	5	5	4
13	2.33	2.33	2	4	1
14	2.67	2.78	3	4	1
15	4.28	4.56	5	5	3
16	4.44	4.56	5	5	4
17	4.50	4.33	5	5	3
回答者数	18	9			



受講生の傾向

WEBやズームでの講義だったので詳細は不明であるが、毎回の課題提出や期末試験をみていると、レベルは高かったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
ズームでの講義の進め方や資料の提示方法を工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

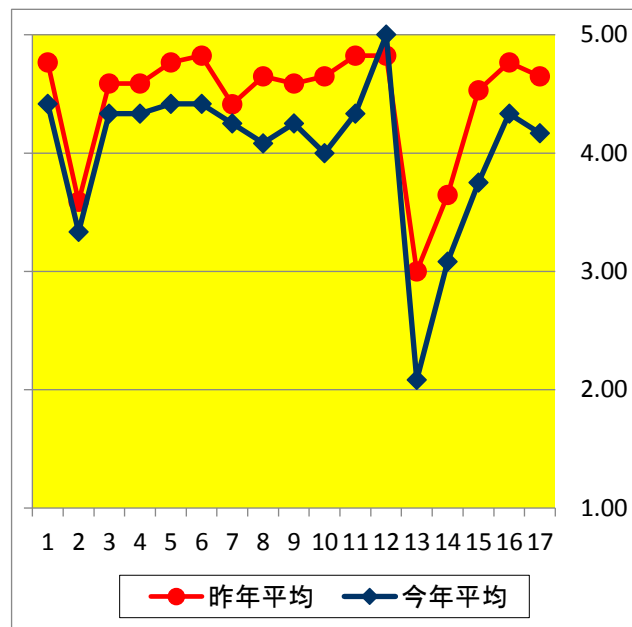
別件の仕事案件が多く、書籍化は少し先延ばしになりそう。より、「会計って楽しい」と思えるような講義になるよう、日々自己研鑽に励む。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「会計って楽しい」と思えるような講義を展開できた。今後もさらにブラッシュアップしていきたい。

科 目	上級原価計算論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3	
受講者数	18	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.76	4.42	4	5	4
2	3.59	3.33	3	5	3
3	4.59	4.33	4	5	3
4	4.59	4.33	4	5	3
5	4.76	4.42	4	5	4
6	4.82	4.42	5	5	3
7	4.41	4.25	4	5	3
8	4.65	4.08	4	5	3
9	4.59	4.25	4	5	4
10	4.65	4.00	4	5	3
11	4.82	4.33	4	5	4
12	4.82	5.00	5	5	5
13	3.00	2.08	1	5	1
14	3.65	3.08	3	5	1
15	4.53	3.75	4	5	2
16	4.76	4.33	4	5	4
17	4.65	4.17	4	5	3
回答者数	17	12			



受講生の傾向

WEBやズームでの講義だったので詳細は不明であるが、毎回の課題提出や期末試験をみていると、レベルは高かったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
ズームでの講義の進め方や資料の提示方法を工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

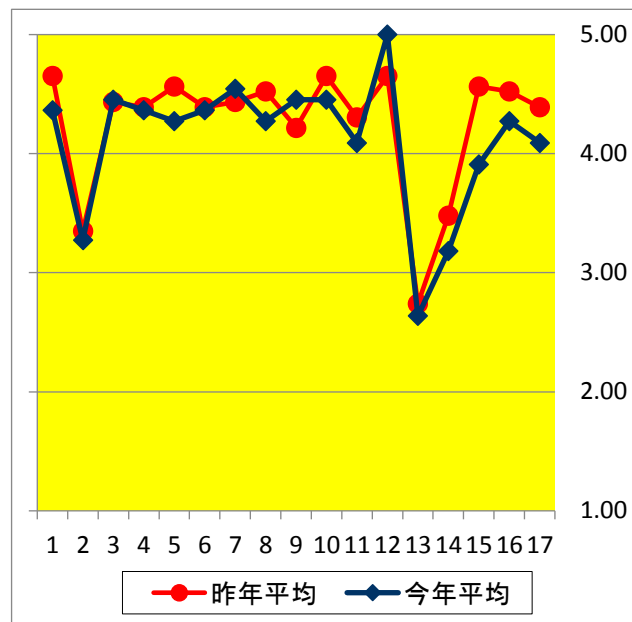
別件の仕事案件が多く、書籍化は少し先延ばしになりそう。より、「会計って楽しい」と思えるような講義になるよう、日々自己研鑽に励む。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「会計って楽しい」と思えるような講義を展開できた。今後もさらにブラッシュアップしていきたい。

科 目	上級管理会計論(A)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	31	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.65	4.36	4・5	5	3
2	3.35	3.27	3	5	3
3	4.43	4.45	5	5	3
4	4.39	4.36	5	5	3
5	4.57	4.27	5	5	3
6	4.39	4.36	5	5	2
7	4.43	4.55	5	5	4
8	4.52	4.27	5	5	3
9	4.22	4.45	5	5	3
10	4.65	4.45	4	5	4
11	4.30	4.09	4	5	3
12	4.65	5.00	5	5	5
13	2.74	2.64	2・3	4	1
14	3.48	3.18	3	5	2
15	4.57	3.91	4	5	2
16	4.52	4.27	5	5	3
17	4.39	4.09	4・5	5	3
回答者数	23	11			



受講生の傾向

この講義は、必修科目として位置付けられる基本科目群科目のひとつである。受講生は真面目に出席していた。2020年度の春学期は新型コロナウイルスの影響により、オンデマンドおよびリアルタイム遠隔講義による授業を実施した。そのため、例年とは授業運用方法を大きく変更した。受講生は、全体としてはオンライン講義に対応できたものと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度とは異なり、2020年度春学期は、新型コロナウイルスの影響に伴って、オンデマンド講義およびリアルタイム遠隔講義を行った。したがって、今回の講義では、講義スライド、練習問題、および提出課題をオンライン対応とするなど前年から大きく変更した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

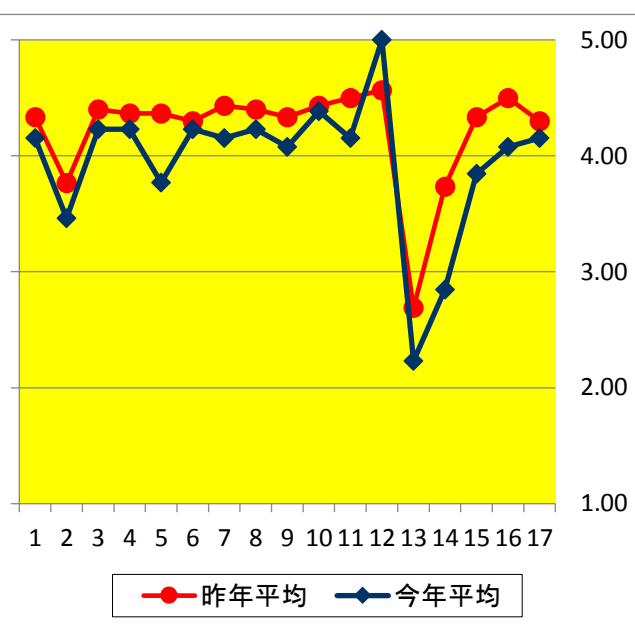
昨年度と同様に、受講生に対するきめ細かな対応を心掛けた。その結果として、本年も比較的高い評点を獲得することができたと考えている。したがって、今後も、本年度と同様の取り組みを継続することが重要であると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義方法が前年度から大きく変更されたが、受講生からは講義計画に沿った授業であるという評価を受けた。しかしながら、講義の全体的な評点はやや低下傾向にあるため、さらに講義方法を改善する必要性を感じた。

科 目	監査制度論(A)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	33	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.15	5	5	1
2	3.77	3.46	3	5	3
3	4.40	4.23	4・5	5	1
4	4.37	4.23	4・5	5	1
5	4.37	3.77	4	5	1
6	4.30	4.23	4・5	5	1
7	4.43	4.15	4	5	1
8	4.40	4.23	5	5	1
9	4.33	4.08	5	5	1
10	4.43	4.38	4・5	5	3
11	4.50	4.15	5	5	1
12	4.57	5.00	5	5	5
13	2.69	2.23	2	5	1
14	3.73	2.85	2	5	1
15	4.33	3.85	4	5	1
16	4.50	4.08	4	5	1
17	4.30	4.15	4	5	2
回答者数	30	13			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%以上となっており、極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。但し、初めてのオンラインによる講義となった点を考慮する必要がある。

しかし、昨年度の春学期クラスAの評価に比べると、講義進度はほぼ適切であるものの(項目2)、全体的に評価が低下してしまった。特に教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)、宿題や小テスト(項目9)といった項目、ならびに満足度(項目11)のほぼ全ての項目において、昨年実績より低下している。また、課題予習(項目13)も復習(項目14)に対する時間は低下し、本科目の受講に伴う学習意欲(項目15)、ならびに知識・能力(項目16)も、相対的に昨年実績よりも低い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂監査基準及び監査実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによるスライドに加えて、オンライン対応のために資料及び説明を追加した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布用の資料は、事前に関西大学LMSにアップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。

2回分の授業が終了するごとに、当該2回分の理解度を確認する目的と復習を動機付けるために、オンラインで復習課題1つを解答させて写真を撮ってLMS経由で提出させた。翌週までにそれらを添削しコメントを記載した上で、LMS経由で各個に返却した。当該返却に当たっては添削上のポイントを解説した。最終的に、講義2回→復習課題実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

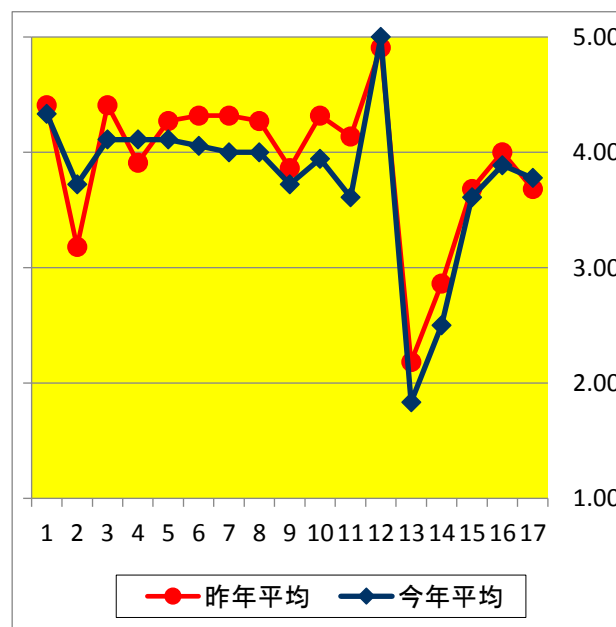
講義終了時に、実施可能な復習課題の範囲を明示し、次に実施する小テストの範囲に言及することで、受講生に復習を促すようにする必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

オンラインによる講義形式の場合、授業評価アンケートの回収率にも表われているように、受講生の積極的な関与を可能とする方法を特別に案出する必要がある。今後、オンライン講義を行う場合、単に課題を課すだけでなく、講義中のランダムな質疑応答をオンラインで実施して緊張感を維持しなければならない。

科 目	監査基準論<監査基準>(A)			
配当年次	1	開講時限	春水2	
受講者数	38	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.41	4.33	4・5	5	3
2	3.18	3.72	3	5	3
3	4.41	4.11	4	5	2
4	3.91	4.11	4	5	2
5	4.27	4.11	4	5	1
6	4.32	4.06	4	5	2
7	4.32	4.00	4	5	1
8	4.27	4.00	4	5	1
9	3.86	3.72	4	5	1
10	4.32	3.94	4	5	2
11	4.14	3.61	4	5	1
12	4.91	5.00	5	5	5
13	2.18	1.83	1	4	1
14	2.86	2.50	2	5	1
15	3.68	3.61	4	5	1
16	4.00	3.89	4	5	1
17	3.68	3.78	4	5	1
回答者数	22	18			



受講生の傾向

授業速度が速いと感じる生徒が昨年度に比べ増えている。
事前準備、説明・配布資料、機材利用の適切さ、質問への対応、授業への満足度が0.1～0.5点下がってしまっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この春学期が初めてなので、昨年度のアンケートを踏まえて今回の講義で工夫した点はありません。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

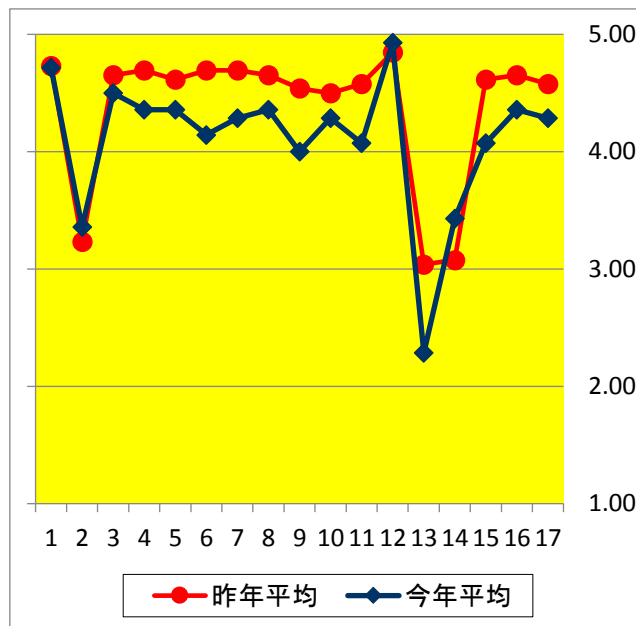
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業スピードを抑制し、提示資料も削減の上、質問の機会を設ける。

科 目	会計専門職業倫理(A1)			
配当年次	2	開講時限	春水1	
受講者数	22	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.71	5	5	4
2	3.23	3.36	3	5	3
3	4.65	4.50	4・5	5	4
4	4.69	4.36	5	5	3
5	4.62	4.36	5	5	2
6	4.69	4.14	4	5	3
7	4.69	4.29	4	5	3
8	4.65	4.36	4	5	3
9	4.54	4.00	4	5	1
10	4.50	4.29	4	5	3
11	4.58	4.07	4	5	2
12	4.85	4.93	5	5	4
13	3.04	2.29	1	5	1
14	3.08	3.43	3	5	1
15	4.62	4.07	4	5	2
16	4.65	4.36	4	5	3
17	4.58	4.29	4	5	3
回答者数	26	14			



受講生の傾向

オンライン授業ではあったが、積極的な参加の熱意が感じられた。質問への応対やグループディスカッションへの取組みも適切であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

当初、受講者数が40名を越えていたため、急遽2クラスに分けて実施した。それにより、受講生個人個人に対する目配りが確保できたと思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

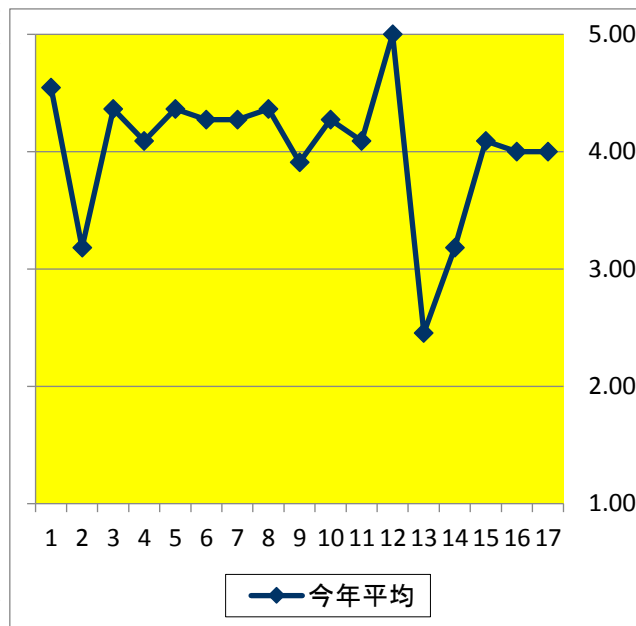
今学期の授業は順調に進めることができたためこのペースを維持したい。ただ、定員が減り、春学期に受講が集中する傾向があるため、学期間のバランスをどう取るか、課題は多い。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

20人程度のクラスの規模が最適と考えられる。今後も受講希望者数に応じてクラスの規模を調整することが必要。

科 目	会計専門職業倫理(A2)			
配当年次	2	開講時限	春月3	
受講者数	19	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.55	5	5	4
2	—	3.18	3	5	3
3	—	4.36	5	5	2
4	—	4.09	5	5	1
5	—	4.36	4・5	5	3
6	—	4.27	5	5	3
7	—	4.27	5	5	3
8	—	4.36	5	5	3
9	—	3.91	4・5	5	1
10	—	4.27	4	5	4
11	—	4.09	5	5	1
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.45	1・3	5	1
14	—	3.18	2	5	2
15	—	4.09	5	5	1
16	—	4.00	5	5	1
17	—	4.00	4	5	1
回答者数	—	11			



受講生の傾向

オンライン授業ではあったが、積極的な参加の熱意が感じられた。質問に対する対応やグループワークへの取組みも適切であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
水曜1限クラスを分割して本クラスを実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

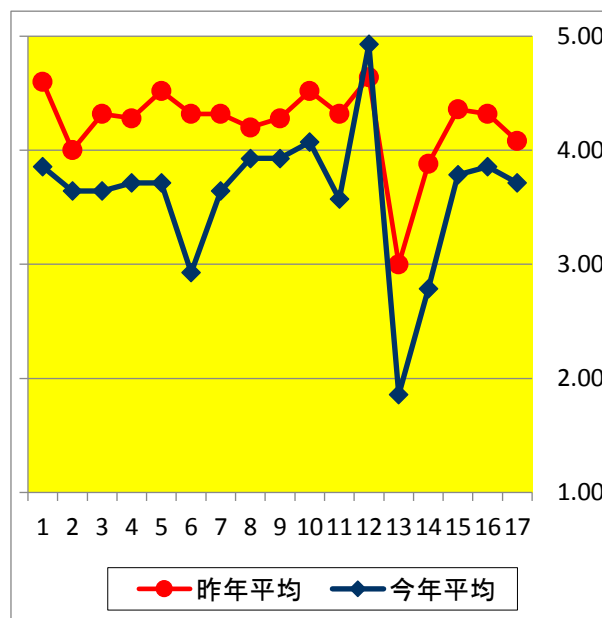
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

20人程度のクラスの規模が最適と考えられる。今後も受講希望者数に応じてクラスの規模を調整することが必要。

科 目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	春火3	
受講者数	36	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	3.86	4	5	1
2	4.00	3.64	3	5	3
3	4.32	3.64	4	5	1
4	4.28	3.71	4	5	1
5	4.52	3.71	4	5	2
6	4.32	2.93	4	5	1
7	4.32	3.64	4	5	1
8	4.20	3.93	4	5	3
9	4.28	3.93	4	5	2
10	4.52	4.07	4	5	3
11	4.32	3.57	4	5	1
12	4.64	4.93	5	5	4
13	3.00	1.86	1	4	1
14	3.88	2.79	3	5	1
15	4.36	3.79	4	5	2
16	4.32	3.86	4	5	2
17	4.08	3.71	4	5	1
回答者数	25	14			



受講生の傾向

講義形態がオンラインであったが、概ね真摯に毎回受講していたように思われる。ただ、今年度春学期の受講生にとって、コロナ禍による講義開始の遅れ、オンデマンド授業からのオンラインによるライブ授業、オンラインによる小テスト及び最終試験など、戸惑うことが多かったと想像される。また、従来の対面方式による講義形態からオンラインによる講義に変更されたことによる、講義資料や講義資料の提示などの調整が不十分であったことから、講義の進捗速度が速いと感じたりしているようであった。特に、対面と同様の資料提示であったが、オンラインによる場合には、不向きな部分もあったようであり、受講生はあまり適切であるとは感じなかったと想像される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と講義形態が異なり、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて工夫することは難しい。対面と同様となるように一部資料をオンラインでの講義用に変更したり、課題実施を試みたが、調整が不十分であったことは否めない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

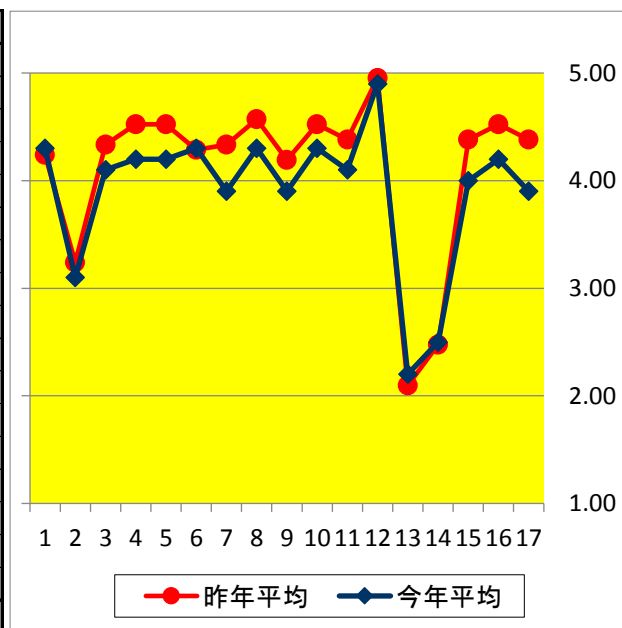
今年度も、一昨年度や昨年度と同様に、受講生の受講態度や学習意欲が二極化していると感じる。十分に受講の準備ができていない受講生に対しては、予習・復習を促し、小テストの結果に応じた追加的な学習指導ができるよう資料作成などの工夫を模索してみようと思う。また、十分に受講準備ができている受講生には、より正確な理解ができるような説明や資料作成など工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

原則として対面での講義に戻るため、今年度のアンケート結果を踏まえた改善は難しいが、オンラインでの講義で試行錯誤した部分を対面での講義にも取り入れ、より効果的な資料の提示や予習・復習用の課題提示を行っている予定である。昨年度以前の現象としての受講生の受講態度や学習意欲が二極化については、オンラインであったため不明であるが、二極化したままである可能性を想定し、資料や課題作成に工夫を講じるつもりである。

科目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	春火4	
受講者数	26	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.24	4.30	4	5	4
2	3.24	3.10	3	4	3
3	4.33	4.10	4	5	3
4	4.52	4.20	4・5	5	3
5	4.52	4.20	4	5	2
6	4.29	4.30	4	5	3
7	4.33	3.90	4	5	2
8	4.57	4.30	4	5	3
9	4.19	3.90	4	5	2
10	4.52	4.30	4	5	3
11	4.38	4.10	4	5	2
12	4.95	4.90	5	5	4
13	2.10	2.20	2	5	1
14	2.48	2.50	2	4	2
15	4.38	4.00	4	5	2
16	4.52	4.20	4	5	4
17	4.38	3.90	4	5	3
回答者数	21	10			



受講生の傾向

出席率は極めて高い。予習復習の時間は昨年度に比べて上昇している。課題の提出率も非常に高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ZOOMによる授業になった。出席を目視で確認できないので、最初の10回ばかりは簡単な課題を毎回提出させた。ZOOMのギャラリービューに収まる範囲の人数だったので、対面授業と変わらぬ環境を維持できた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

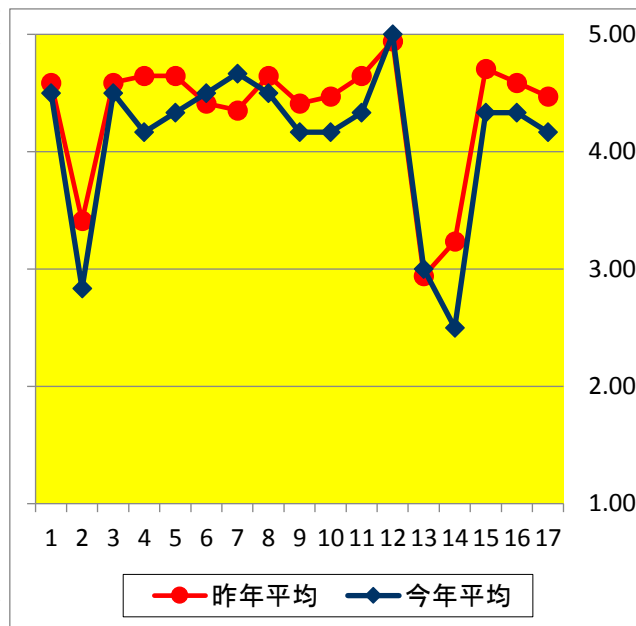
一昨年と比較して、昨年、今年と評価が高まっている。これは求められる内容・水準とあっているように思える。来年度もこの方針を継続したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度はZOOMか対面かはわからないが、基本的な方針は変えずに行う。

科 目	法人税法			
配当年次	1	開講時限	春木4	
受講者数	18	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.59	4.50	4・5	5	4
2	3.41	2.83	3	3	2
3	4.59	4.50	4・5	5	4
4	4.65	4.17	4	5	3
5	4.65	4.33	4	5	4
6	4.41	4.50	4・5	5	4
7	4.35	4.67	5	5	4
8	4.65	4.50	4・5	5	4
9	4.41	4.17	4	5	3
10	4.47	4.17	4	5	3
11	4.65	4.33	4	5	4
12	4.94	5.00	5	5	5
13	2.94	3.00	3	4	1
14	3.24	2.50	2・3	3	2
15	4.71	4.33	4	5	4
16	4.59	4.33	4	5	4
17	4.47	4.17	4	5	4
回答者数	17	6			



受講生の傾向

受講生の構成は、税理士志望者が3分の1、残りが公認会計士志望者と留学生であった。アンケートの回答数が3分の1に留まる点は気になるが、アンケートのNo.7が前年度を上回る結果を示しており、受講生はZoomによる本授業での情報提供物を高く評価してくれたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、今年度より条文集をテキストに追加し、第一回講義で条文集を用いて法人税法の条文体系について解説した。次に、公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つのファイルに分け、後者には解答だけでなく、論述のポイントなど詳細説明を付し、授業後に速やかにLMSへアップした。さらに、判例に関する課題レポートには、必ず取引図を描かせ、その図の中に争点となる条文番号を付すよう繰り返し指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

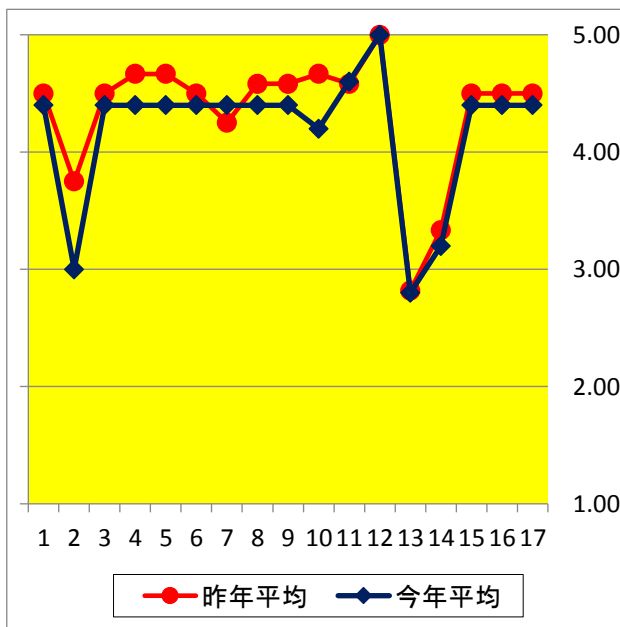
公認会計士試験における法人税法の近年の傾向は、条文の当てはめが中心となっている。そこで、受講生にはまず法人税法の条文体系を最初に解説し、次に公認会計士試験の過去問を題材に条文集を使った当てはめのトレーニングを行うようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つに分けるという上記の方法は、Zoomによる授業への対応から採用したものであったが、方法として有効であったように思われる。次年度も引き続き、上記の方法を継続していきたい。また、公認会計士試験における論述問題に対応するため、受講生に記述させる時間を授業内で確保する。

科目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	春火4	
受講者数	8	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.40	4	5	4
2	3.75	3.00	3	3	3
3	4.50	4.40	4	5	4
4	4.67	4.40	4	5	4
5	4.67	4.40	4	5	4
6	4.50	4.40	4	5	4
7	4.25	4.40	4	5	4
8	4.58	4.40	4	5	4
9	4.58	4.40	4	5	4
10	4.67	4.20	4	5	4
11	4.58	4.60	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.82	2.80	2・3	4	2
14	3.33	3.20	3・4	4	2
15	4.50	4.40	4	5	4
16	4.50	4.40	4	5	4
17	4.50	4.40	4	5	4
回答者数	12	5			



受講生の傾向

受講生のうち1名が公認会計士志望者であり、その他は全て税理士志望者であった。ただ、税務会計の既修者は1名のみであったため、授業の進度を前年度よりも緩やかにした(アンケートのNo.2)。今年度の特徴として、全て対面型授業でなかったが、受講生が協力的に取り組んでもらったおかげで、前年度と遜色のない授業成果が得られたようである(アンケートのNo.17)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、公認会計士試験における頻出項目から優先して授業を進めた。次に、公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つのファイルに分け、後者には解答だけでなく、計算過程などの詳細説明を付し、授業後に速やかにLMSへアップした。さらに、頻出項目ではない部分については、主としてレジュメやテキストを読むように伝えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

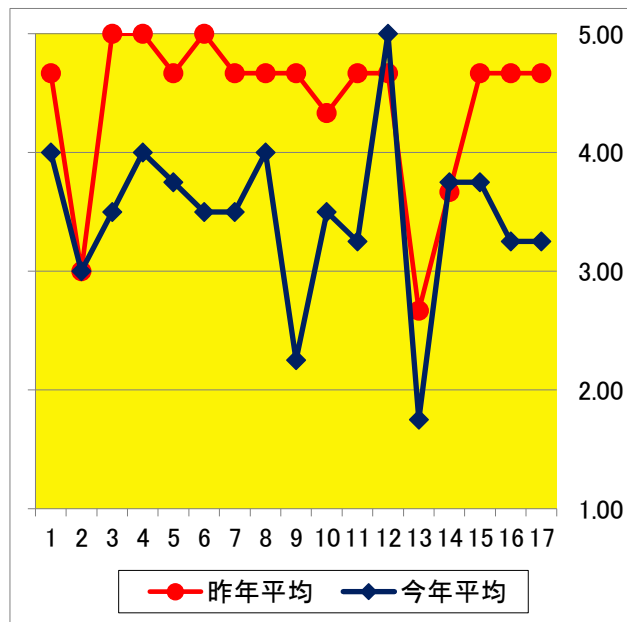
公認会計士試験における法人税法の計算項目は広く、次年度もこれに対応する必要がある。重要度の高い項目にウェイトをかけて講義を行いつつ、需要度の低い項目については講義レジュメのさらなる充実により対応したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問を問題と解答の2つに分けるという上記の方法は、Zoomによる授業への対応から採用したものであったが、方法として有効であったように思われる。次年度も引き続き、上記の方法を継続していきたい。

科 目	特殊講義(資本市場論)＜資本市場論＞		
配当年次	2	開講時限	春水2
受講者数	8	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.00	4	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	3.50	4	4	2
4	5.00	4.00	4	5	3
5	4.67	3.75	4	5	2
6	5.00	3.50	4	4	2
7	4.67	3.50	4	4	2
8	4.67	4.00	4	5	3
9	4.67	2.25	2	3	2
10	4.33	3.50	3・4	4	3
11	4.67	3.25	1・3・4・5	5	1
12	4.67	5.00	5	5	5
13	2.67	1.75	1	4	1
14	3.67	3.75	4	4	3
15	4.67	3.75	4	4	3
16	4.67	3.25	4	4	1
17	4.67	3.25	4	4	1
回答者数	3	4			



受講生の傾向

受講生8名、内訳は公認会計士合格者1名及び志望者4名、税理士志望者2名などであり、専門職を志望する者の割合が高かった。

特に講義の大部分はオンラインであったが出席率については概ね高かった。

講義では質疑応答を重視し、主体的な態度で自身の見解をまとめ発表ができるようになることを到達目標の一つとしていたが、前向きに発言するよう取り組んでいる者もあり、全体としては講義への関心の高さが感じられた。

オンライン講義となったことから毎回課題提出を求めることとしたが、負担に感じている受講生もいるように見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努めた。

ただ講義の大部分はオンラインであったため、課題演習の受講生ごとの発表について、できるだけ多くの受講生の発表内容に触れつつ講評をするように努めたものの、対面講義と同程度のやり取りは難しかった面も否めない。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

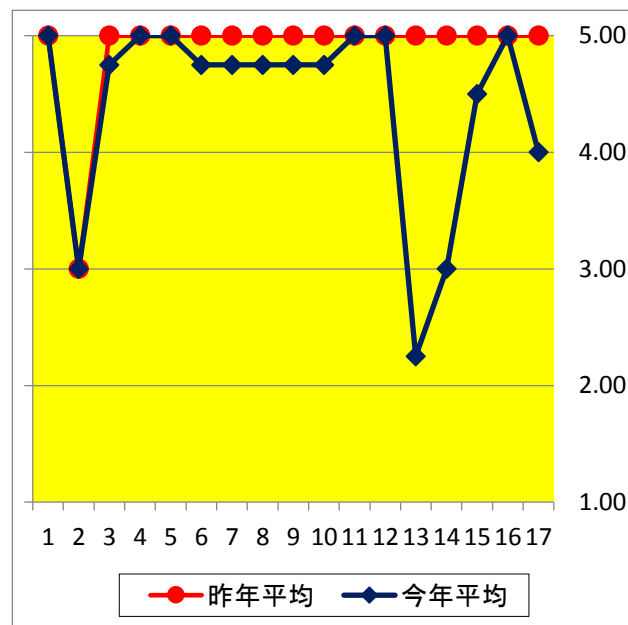
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、オンライン講義であったことにより一部実施が困難であったグループワークについても、できるだけ取り入れるよう進めていきたい。

科 目	特殊講義(負債・資本金論)＜負債・資本金論＞			
配当年次	2	開講時限	春月3	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.75	5	5	4
7	5.00	4.75	5	5	4
8	5.00	4.75	5	5	4
9	5.00	4.75	5	5	4
10	5.00	4.75	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	2.25	3	3	1
14	5.00	3.00	2・4	4	2
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	4.00	4	5	3
回答者数	1	4			



受講生の傾向

参加者が4名であり、昨年に続いて、きわめてまじめな態度で授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度はZOOMによる授業であったが、特に授業進行上の問題はなかった。徹底した討論と学生によるテーマ報告で負債・資本の範囲をカバーできた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

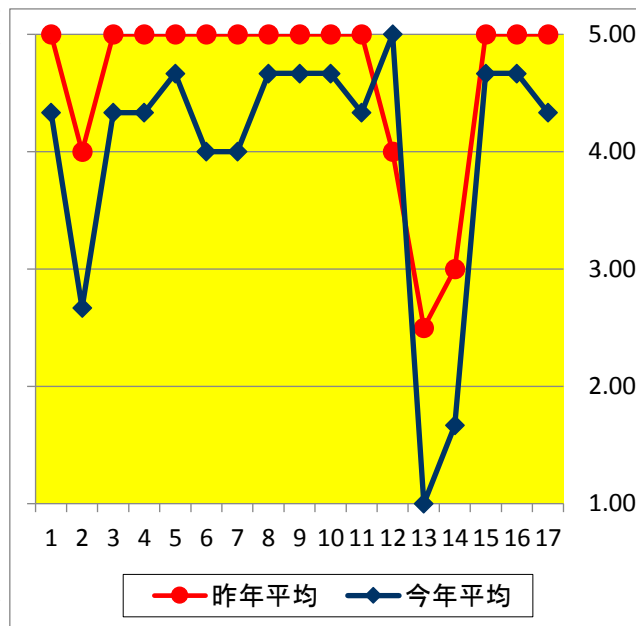
履修者の人数に合わせて対応を変えたい。今年度が特別かもしれないので、例年の方式に戻すか否かは、履修者と相談しながら決める。いずれにしろ、カバーする範囲は変わらない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

人数が数名程度と少人数が続いている。そのため、演習形式の授業が可能である。来年度は本科目は廃止される予定であるが、少人数の科目には本科目のやり方を踏襲できる。

科 目	特殊講義(不正摘発監査論)＜不正摘発監査論＞			
配当年次	2	開講時限	春土4	
受講者数	8	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.33	5	5	3
2	4.00	2.67	3	3	2
3	5.00	4.33	4	5	4
4	5.00	4.33	4	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	5.00	4.00	3・4・5	5	3
7	5.00	4.00	3・4・5	5	3
8	5.00	4.67	5	5	4
9	5.00	4.67	5	5	4
10	5.00	4.67	5	5	4
11	5.00	4.33	4	5	4
12	4.00	5.00	5	5	5
13	2.50	1.00	1	1	1
14	3.00	1.67	2	2	1
15	5.00	4.67	5	5	4
16	5.00	4.67	5	5	4
17	5.00	4.33	4	5	4
回答者数	2	3			



受講生の傾向

全ての受講生が公認会計士を目指しており、不正摘発に関する意識は高かったように思います。ただ、対面講義が実施できなかったことも影響してか、こちらからの問いかけに対して積極的に考えて発言する人はほとんどおらず、一方的にこちらが説明する状況が多かったのが残念でした。ただ、最後に成績評価のために出した課題については、皆概ね良く分析して論述できており優秀でした。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

新任のため、昨年度の他の教授の講義のことは全く意識しておりません。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

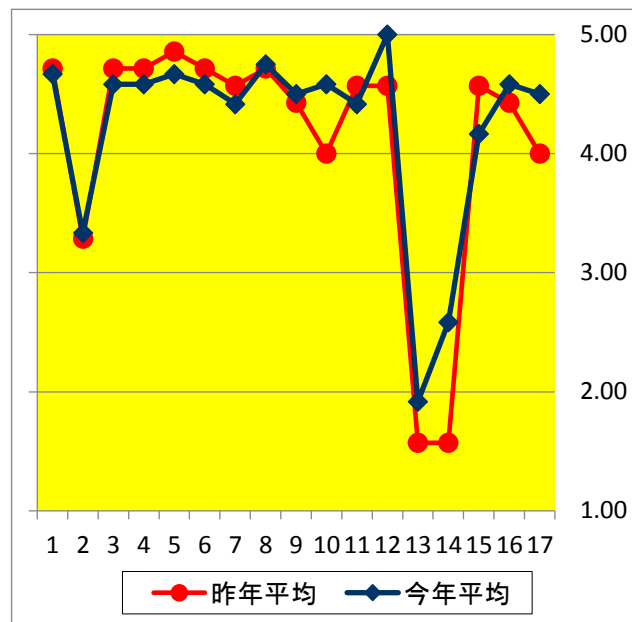
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対面講義のためか、受講生の反応が把握できず、また、受講生同士のディスカッション等も行えず、一方通行の講義となってしまったことが反省点です。受講生が積極的に講義の議論に参加できるように工夫したいと思います。

科 目	特殊講義(企業マネジメントと会計)		
配当年次	1	開講時限	春月4
受講者数	18	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.67	5	5	3
2	3.29	3.33	3	5	3
3	4.71	4.58	5	5	2
4	4.71	4.58	5	5	3
5	4.86	4.67	5	5	3
6	4.71	4.58	5	5	3
7	4.57	4.42	5	5	2
8	4.71	4.75	5	5	4
9	4.43	4.50	5	5	3
10	4.00	4.58	5	5	3
11	4.57	4.42	5	5	2
12	4.57	5.00	5	5	5
13	1.57	1.92	2	4	1
14	1.57	2.58	2	5	1
15	4.57	4.17	4・5	5	2
16	4.43	4.58	5	5	3
17	4.00	4.50	5	5	2
回答者数	7	12			



受講生の傾向

本科目は初めての担当であった。出席率100%の学生が大半、予習復習の時間は昨年度より大幅に増加。最後まで熱心に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ZOOM上の問題はなかった。ZOOMのブレイクアウト機能を使い、グループ討論を数度できた。講義では、企業マネジメントと会計の関係に言及しながら、損益分岐点分析や財務諸表の分析を訓練させた。これらには大いに興味を持ったようである。

今後の対応

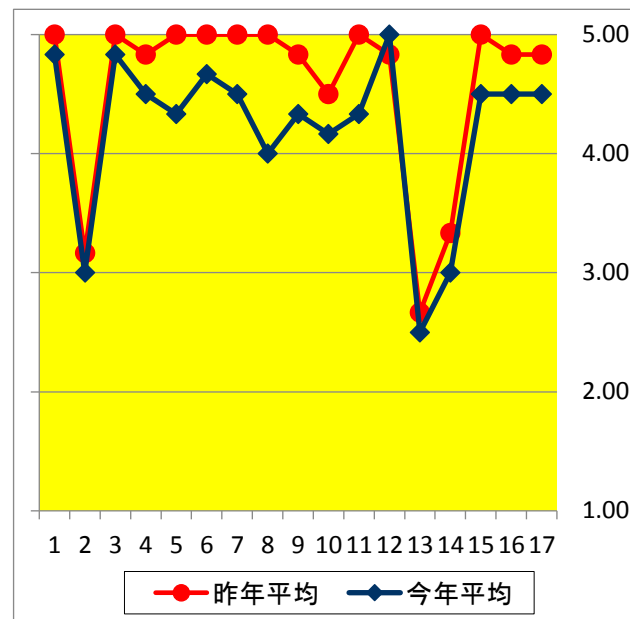
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度はZOOM形式か対面形式かにかかわらず、今年のやりかたを踏襲する。

科 目	国際税務論＜国際税務戦略論＞		
配当年次	2	開講時限	春火3
受講者数	8	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.83	5	5	4
2	3.17	3.00	3	3	3
3	5.00	4.83	5	5	4
4	4.83	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.33	4	5	4
6	5.00	4.67	5	5	4
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.00	4	5	3
9	4.83	4.33	4	5	4
10	4.50	4.17	4	5	4
11	5.00	4.33	4	5	4
12	4.83	5.00	5	5	5
13	2.67	2.50	3	4	1
14	3.33	3.00	3	4	2
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	4.83	4.50	4・5	5	4
17	4.83	4.50	4・5	5	4
回答者数	6	6			



受講生の傾向

受講生は全て、税理士志望者であった。なお、国際租税法については全て初学者であったが、出席率100%であり、Zoomを通じた質疑応答、課題提出にも真面目に取り組んでいた。なお、質問No.13で予習時間0時間の受講生の存在を確認できるが、国際租税法の初学者としては本科目の予習をすること自体、難しかったと推測する。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、例題及びその解説付きのテキストを選択した。次に、講義レジュメに取引図をふんだんに取り入れた(取引関係の明確化を図るため)。最後に、国際租税法の理論だけでなく、具体的な所得及び税額の計算を取り入れた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

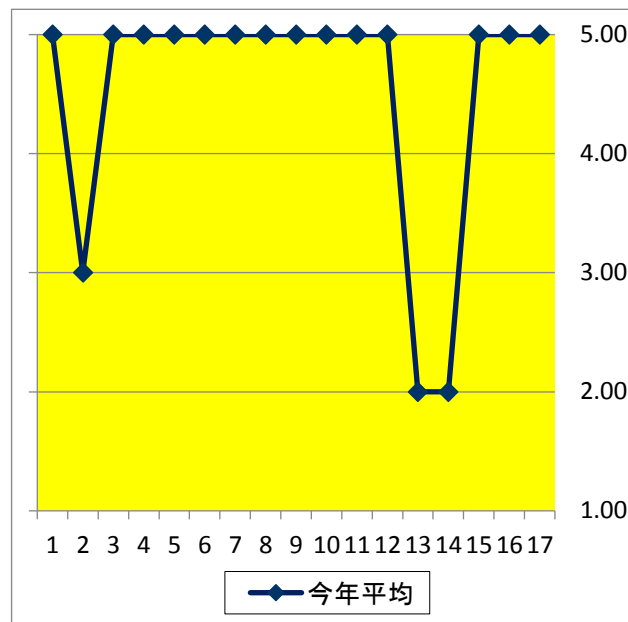
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

国際租税法では、国内税法に加えて、租税条約の解釈適用が必要となるが、それらの適用順序を苦手とする受講生が多かった。解釈適用の事例問題を多く解かせることによって、受講生が苦手とする解釈適用の課題に対応したい。

科 目	インベストメント論			
配当年次	2	開講時限	春木3	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.00	2	2	2
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受講生は、数学等の基礎的な学力が高い上に、インベストメント論を学ぼうとする意欲が高かった。毎回、問題を課題として解かせたが、全員が毎回提出し、間違いについては修正して再提出してきた。また、質問もポイントをついたもので、授業内容を十分に理解していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コロナ禍の影響で、最初の2回はオンデマンド授業、その後はZOOMによる授業を行った。「反転授業」的要素を取り入れ、「前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の提示(⇒時間外授業で問題解答・提出)」という流れで授業を行った。

具体的には、「(前回授業に係る課題の提出)⇒当該課題に係るプレゼンテーション⇒答え合わせの解説(宗岡)⇒その回の授業(宗岡)と質問⇒その回に係る課題の提示(＋前回授業に係る課題で誤った部分の再提出の指示)」という流れで授業を行った。答え合わせの解説とその回の授業について、テキストのみならず、関連する資料を用意して理解を助けるように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

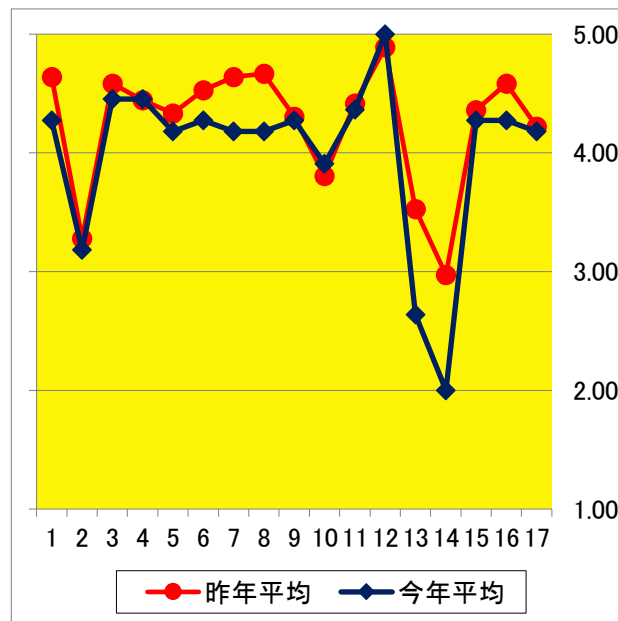
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

オンデマンド授業、ZOOMによる授業のみならず、対面授業においても、今年度行った「反転授業」的要素を取り入れた授業を行っていきたい。

科 目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春水3
受講者数	24	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.27	4	5	4
2	3.28	3.18	3	4	3
3	4.58	4.45	4	5	4
4	4.44	4.45	4	5	4
5	4.33	4.18	4	5	3
6	4.53	4.27	4	5	4
7	4.64	4.18	4	5	3
8	4.67	4.18	4	5	3
9	4.31	4.27	4	5	3
10	3.81	3.91	4	5	3
11	4.42	4.36	4	5	4
12	4.89	5.00	5	5	5
13	3.53	2.64	2	5	2
14	2.97	2.00	2	3	1
15	4.36	4.27	4	5	3
16	4.58	4.27	4	5	3
17	4.22	4.18	4	5	3
回答者数	36	11			



受講生の傾向

リモート授業によりグループディスカッションを個人発表に変更したため、事前の講義要項と違っていただけと受け止められたように考える。

関大LMSへの添付とし資料配布を行わず、スライド投影で進めた点から、昨年度に比べ0.2から0.5点数が下がっている。質問の時間を授業中に取らなかった点から、質問への回答の点数も0.5点下がっている。

予習時間、復習時間が30分程度短くなっている。

また、職業会計人としての知識や能力が高まったと感じたかどうか、0.3点昨年度から下がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回初めての授業なので、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて今回工夫、留意した点はありません。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

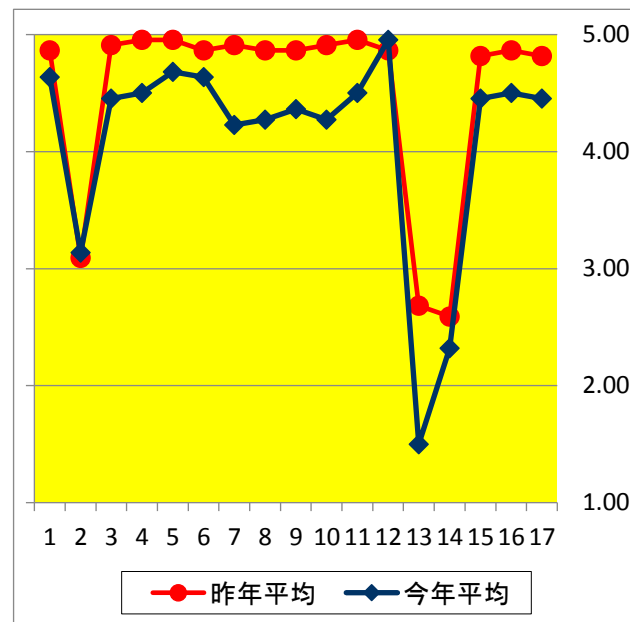
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

リモート受講生もいる中で引き続きグループディスカッションは控えているが、配布資料を削減し、質問時間を十分にとるよう努めたい。説明する会計基準の論点も、消化不良にならないよう、よりポイントを絞った内容に変え、時間的な余裕をもって理解度をアップさせたい。

科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	春土3
受講者数	46	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.64	5	5	4
2	3.09	3.14	3	5	2
3	4.91	4.45	5	5	3
4	4.95	4.50	5	5	3
5	4.95	4.68	5	5	4
6	4.86	4.64	5	5	4
7	4.91	4.23	5	5	2
8	4.86	4.27	4	5	3
9	4.86	4.36	4・5	5	3
10	4.91	4.27	4	5	3
11	4.95	4.50	4・5	5	4
12	4.86	4.95	5	5	4
13	2.68	1.50	1	4	1
14	2.59	2.32	2	5	1
15	4.82	4.45	5	5	3
16	4.86	4.50	4・5	5	4
17	4.82	4.45	4	5	4
回答者数	22	22			



受講生の傾向

頻繁に課題を出しましたが、皆真面目に取り組んでくれ、理解もしてくれたと思います。
ただ、わからない状態でも質問せず、あいまいな知識のまま課題を提出している受講生も少なからずいたので、不明点は積極的に質問等をして解決してほしかったです。

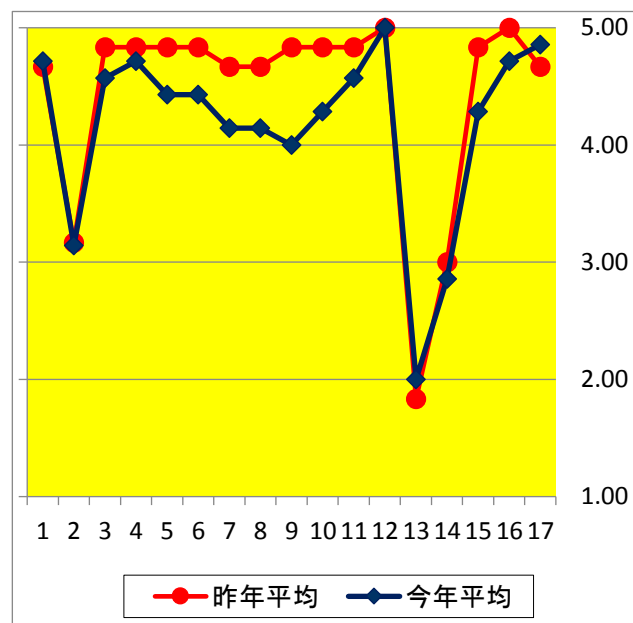
昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
新任のため、昨年度のアンケートを踏まえた工夫は特にしていません。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
各講義に関係する簿記の知識の予習はしてきてほしかったので、毎回次回講義の為に予習すべき簿記の知識を明示しようと思います。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	春金2	
受講者数	18	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.71	5	5	4
2	3.17	3.14	3	4	2
3	4.83	4.57	5	5	4
4	4.83	4.71	5	5	4
5	4.83	4.43	5	5	3
6	4.83	4.43	4	5	4
7	4.67	4.14	5	5	1
8	4.67	4.14	4	5	3
9	4.83	4.00	3・5	5	3
10	4.83	4.29	4・5	5	3
11	4.83	4.57	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.83	2.00	2	3	1
14	3.00	2.86	2	5	2
15	4.83	4.29	4・5	5	3
16	5.00	4.71	5	5	4
17	4.67	4.86	5	5	4
回答者数	6	7			



受講生の傾向

今年度も授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ100%を達成しており、昨年度に引き続き非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。しかしPC実習を必要となる科目であったため、オンラインによる講義には必然的に限界があった。このため昨年度実績と同様に授業計画(項目1)と授業進度は適切(項目2)であったものの、昨年度よりも全体的に評価が低下している。特に説明の仕方(項目5)、配布資料(項目6)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)、宿題や小テスト(項目9)、ならびに満足度(項目11)といった項目のほぼ全ての項目において、昨年実績より低下している。また、全体的な理解度は高まったものの(項目17)、本科目の受講に伴う学習意欲(項目15)、ならびに知識・能力(項目16)も、相対的に昨年実績よりも低い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、テキストをベースにこれまでの監査基準及び監査実務指針を纏め直したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。またオンライン対応のために、資料及び説明を各スライドに追加した。

今年度は、PCを利用できないオンライン講義だったため、監査実施プロセスに関するテキストと配布資料に基づいた授業の分量を増やすとともに、内部統制の有効性評価に関する解説を追加した。監査プロセスと内部統制評価に関する理解度を確認するため、2度の課題(掛け売上取引に関するフローチャート作成と当該取引に係る内部統制の整備状況評価)に纏めさせ、それらに加えて講義時における積極的質問や発言の実績を成績に反映するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

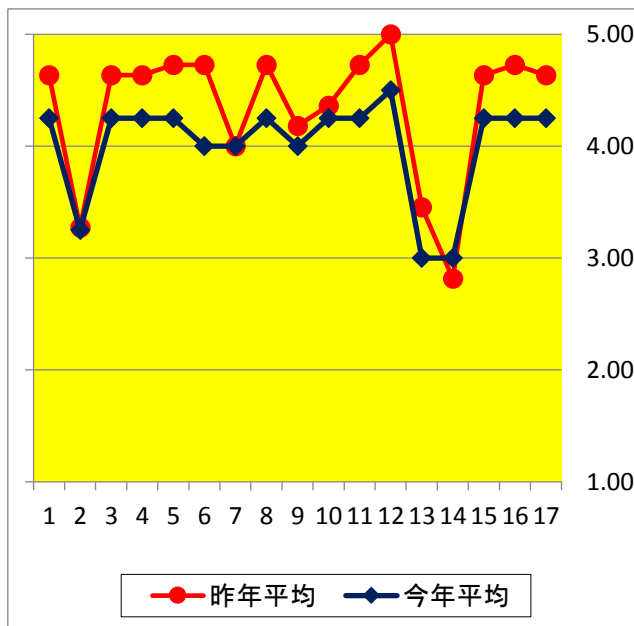
昨年度の反省に基づき課題作成中に机間巡回を行うことで発言を促したが、質疑応答に当たっても机間巡回を取り入れることで、緊張感を与えつつ発言を促したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

PC実習科目であるにもかかわらず、オンラインによる講義形式だったため、授業評価アンケートの回収率にも表われているように、受講生の積極的な関与を可能とする方法を特別に案出する必要がある。今後、オンライン講義を行なう場合、単に課題を課すだけでなく、講義中のより頻繁かつランダムな質疑応答をオンラインで実施して緊張感を維持しなければならない。

科 目	論文指導(導入)(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	春火5	
受講者数	9	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.25	4	5	4
2	3.27	3.25	3	4	3
3	4.64	4.25	4	5	4
4	4.64	4.25	4	5	4
5	4.73	4.25	4	5	4
6	4.73	4.00	4	5	3
7	4.00	4.00	4	5	3
8	4.73	4.25	4	5	4
9	4.18	4.00	4	5	3
10	4.36	4.25	4	5	4
11	4.73	4.25	4	5	4
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	3.45	3.00	2	5	2
14	2.82	3.00	3	3	3
15	4.64	4.25	4	5	4
16	4.73	4.25	4	5	4
17	4.64	4.25	4	5	4
回答者数	11	4			



受講生の傾向

受講生は昨年度と同様、税理士試験の税法科目免除を希望する学生であった。また、受講生のうち5名は税務を含めた社会人経験者であった。彼らが中心となって講義では活発な質疑応答が行われていた。昨年度との対比では、アンケートのNo.13の結果から、本年度の受講生は復習よりも予習の時間が多かったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、本年度の受講生は全て、所得税法の初学者であったため、所得税法の基本書を輪読させることにした。次に、質疑応答を活発化させるために、報告者以外の受講生を2人～3人ずつのペアにし、ペア単位で報告者に質問を行わせる方法を採用した(Zoomの機能を利用)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

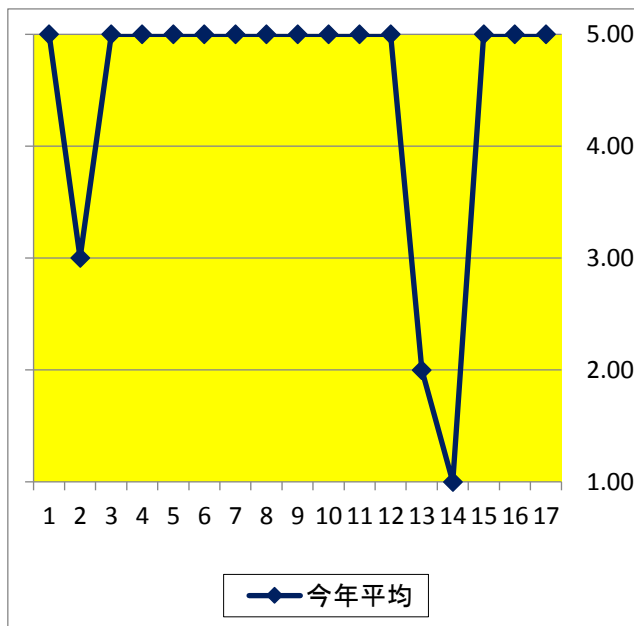
今回採用したペア方式は、受講生間の質疑応答を活発化させることに貢献した。次年度もペア方式を採用したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年度に採用したペア方式は、Zoomであっても受講生による質疑応答を活発化させることに貢献した。従って、次年度もペア方式を採用したい。

科 目	論文指導(導入)(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	春火1
受講者数	2	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.00	2	2	2
14	—	1.00	1	1	1
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

修士論文の作成に当たって、中心となる研究テーマに関する海外文献ならびにわが国先行研究を適時に渉猟し、事前に経過報告用の原稿ファイルを送付するように非常に誠実な姿勢であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

修士論文の完成を可能とするため、提出された経過報告ファイルに毎回朱入れを行い、返送した上で、次の論文指導の際に受講生とともに検討を加え改訂を重ねた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

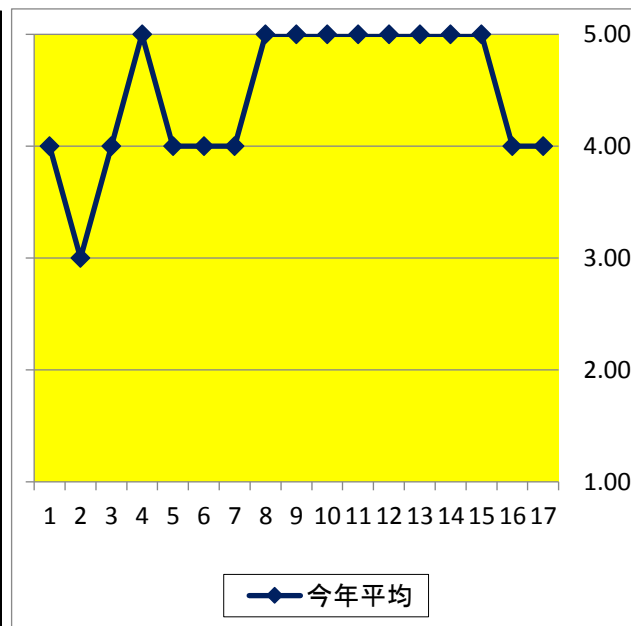
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

論文指導に当たって、オンライン対応による修士論文修正の積み重ねに加えて、対面による相互に質疑応答を継続的に行えるように措置する必要がある。

科 目	論文指導(導入)(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	春火1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



受講生の傾向

今年度春学期の受講生にとって、コロナ禍による講義開始の遅れ、オンデマンド授業からのオンラインによるライブ授業、オンラインによる小テスト及び最終試験など、戸惑うことが多かったと想像される。ただ、受講生が一人であることから、オンラインによるライブ授業に移行してからは、積極的に受講していたと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と講義形態が異なり、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて工夫することは難しい。対面と同様となるように調整を試みたが不十分であったことは否めない。また、マンツーマンでのオンライン授業のメリットも大きく、資料提示や説明はその場で追加することが容易であった。少人数の場合には効果的な部分も大きいと想像される。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

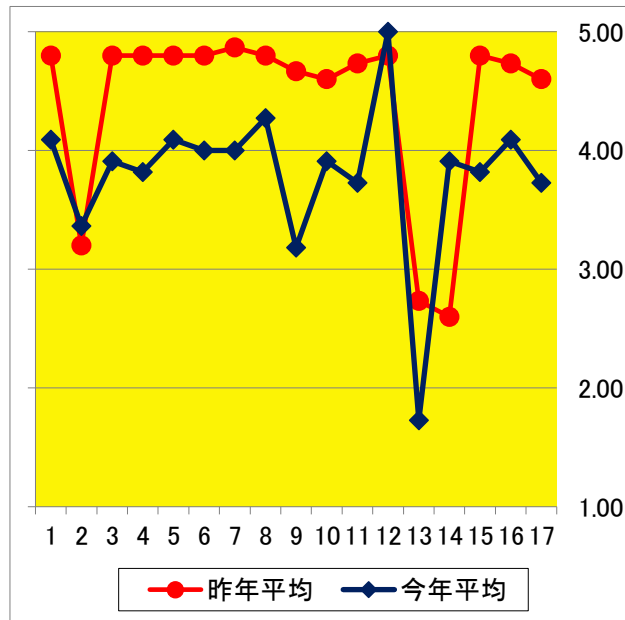
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度は「該当なし」であり、また今年度は原則として対面での講義に戻るため、今年度のアンケート結果を踏まえた改善は難しいが、オンラインでの授業形式で感じた効果の高い部分を取り込めるように工夫したいと考える。また、タブレットなどを活用した資料提示や追加説明なども積極的に導入してみたいと考える。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	春水3	
受講者数	22	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.09	4	5	3
2	3.20	3.36	3	5	3
3	4.80	3.91	4	5	2
4	4.80	3.82	4	5	2
5	4.80	4.09	4	5	2
6	4.80	4.00	4	5	3
7	4.87	4.00	4	5	2
8	4.80	4.27	4	5	3
9	4.67	3.18	2・4	5	2
10	4.60	3.91	4	5	3
11	4.73	3.73	4	5	1
12	4.80	5.00	5	5	5
13	2.73	1.73	1	5	1
14	2.60	3.91	4	5	2
15	4.80	3.82	4	5	3
16	4.73	4.09	4	5	2
17	4.60	3.73	4	5	1
回答者数	15	11			



受講生の傾向

受講生22名、内訳は公認会計士試験合格者2名及び志望者9名、税理士志望者2名、国税専門官志望者1名、留学生7名など。留学生は中国CPA志望者3名、企業人志望者が4名であった。

講義内容に関する既学習内容、受講生の要望について幅があり、留学生の一部については語学力が壁となって講義、課題演習の取り組みとともに一部苦労している印象を受けた。

特に講義の大部分はオンラインであったが出席率については概ね高く、講義への関心の高さが見て取れた。講義では知識の習得のみならず、主体的な態度で自身の見解をまとめ発表ができるようになることを到達目標の一つとしていたが、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいた。

オンライン講義となったことから毎回課題提出を求めることとしたが、負担に感じている受講生もいるように見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の質疑について、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいることを想定し、講義形式では全体の進捗管理が難しくなるため、講義中に班分けしたうえでグループワークと発表の機会を何度か設け、班分けにおいて既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めることを予定していたが、講義の大部分がオンラインとなったこともあり、上記形式での実施が一部困難となった。そのため、課題演習の受講生ごとの発表について、できるだけ多くの受講生の発表内容に触れつつ講評をするように努めたものの、対面講義と同程度のやり取りは難しかった面も否めない。

また、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努め、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義中の質疑について、前向きに発言するよう取り組んでいる者、受け身の姿勢の者のいずれもいたが、講義形式では全体の進捗管理が難しくなるため、講義中に班分けしたうえでグループワークと発表の機会を何度か設け、班分けにおいて既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めることで、受講生に一定の満足度が確保されたように見受けられることから、今後も継続していきたい。

また、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

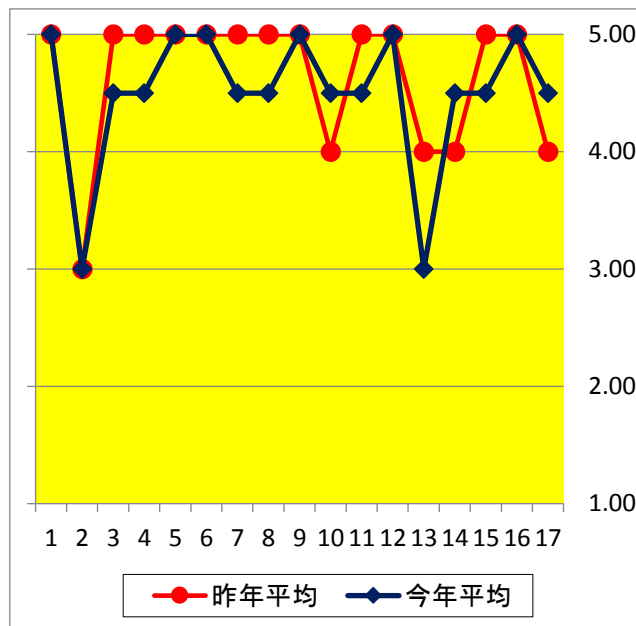
引き続き、講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。

また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、オンライン講義であったことにより一部実施が困難であったグループワークについても、できるだけ取り入れるよう進めていきたい。

Ⅲ-(2). 2020 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	3.00	2・4	4	2
14	4.00	4.50	4・5	5	4
15	5.00	4.50	4・5	5	4
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	2	2			



受講生の傾向

春学期で単位を落とした生徒と別科生が受講していたが、双方にレベル差が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初めて受け持つ講義であったが、講義の復習を徹底するため、各回小テストを実施した。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

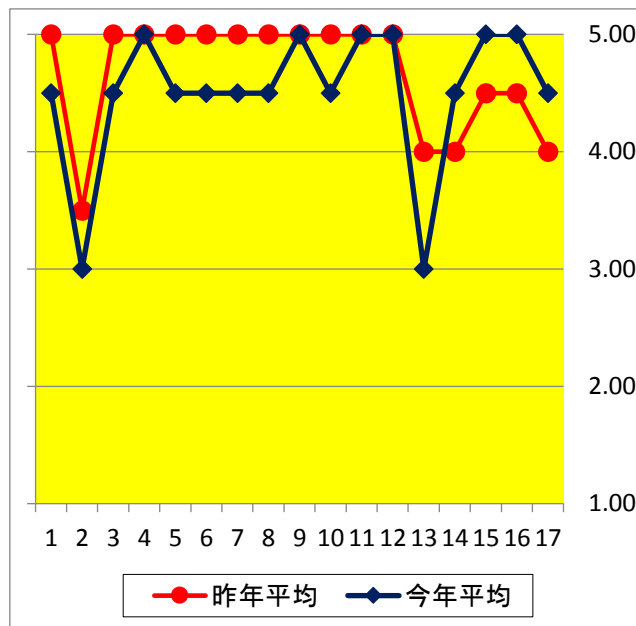
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

	中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	3.00	2・4	4	2
14	4.00	4.50	4・5	5	4
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	2	2			



受講生の傾向

春学期で単位を落とした生徒と別科生が受講していたが、双方にレベル差が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初めて受け持つ講義であったが、講義の復習を徹底するため、各回小テストを実施した。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

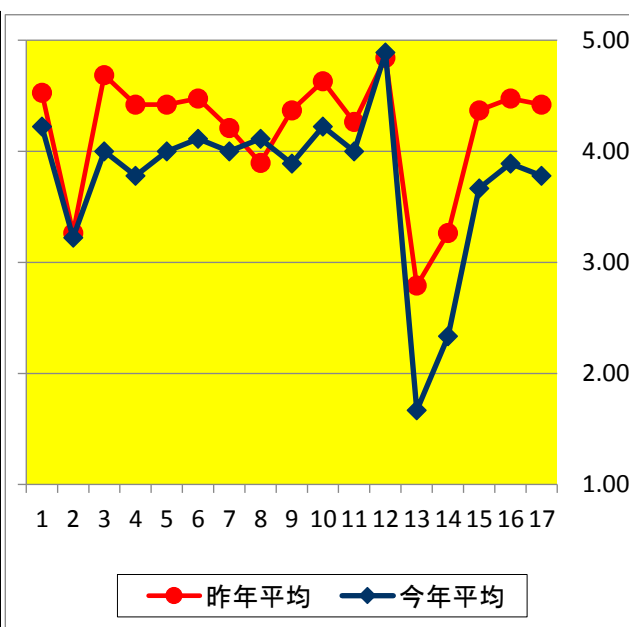
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

進度が遅いという指摘があるため、次年度は進度を早くし進めたい。

科 目	上級財務会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月1
受講者数	20	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.22	4	5	4
2	3.26	3.22	3	4	2
3	4.68	4.00	4	5	3
4	4.42	3.78	4	5	2
5	4.42	4.00	4	5	3
6	4.47	4.11	4	5	3
7	4.21	4.00	4	5	3
8	3.89	4.11	4	5	3
9	4.37	3.89	4	5	2
10	4.63	4.22	4	5	4
11	4.26	4.00	4	5	3
12	4.84	4.89	5	5	4
13	2.79	1.67	1・2	3	1
14	3.26	2.33	2	3	2
15	4.37	3.67	4	5	2
16	4.47	3.89	4	5	2
17	4.42	3.78	4	5	2
回答者数	19	9			



受講生の傾向

コロナ禍の中、オンライン講義から対面講義へ復帰し、安堵とともに若干の戸惑いがあるようにも見受けられる。オンラインで実施された春学期の同授業(上級財務会計論(A))と同内容となるように小テストの実施方法など調整した部分もあり、講義冒頭に出席できていない(遅刻してくる)受講生が散見された。この受講態度は、予習・復習時間(質問13/14)にもあらわれており、昨年度と比較して低下している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度秋学期の担当ではないが、今年度春学期や昨年度春学期を踏まえると、講義時間確保のため、また、春学期と同等となるようにするため、従来教室で実施していた小テストと中間試験を関大LMSで実施した。さらに、講義内容の一部であるIFRSの概念フレームワークの翻訳がなく、原文によって講義を実施している。そのため、難易度が高く感じないように説明を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

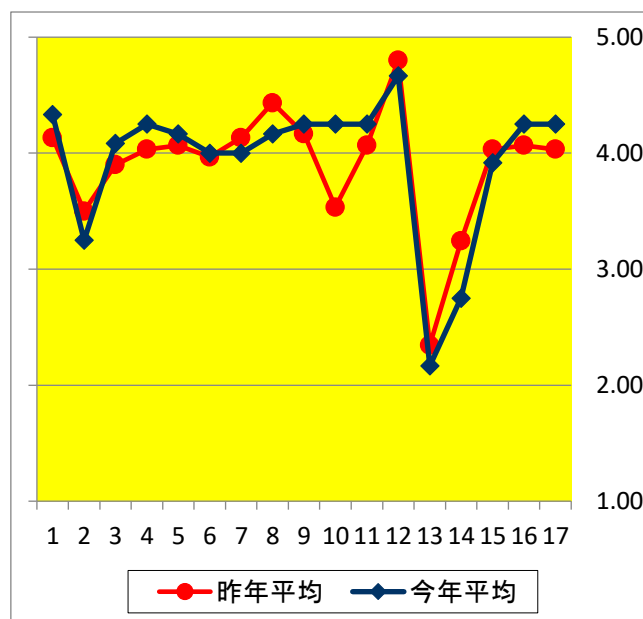
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の担当ではないため、「今後の対応」を踏まえることはできないが、講義時間確保のため、小テストと中間試験については関大LMSで実施するつもりであるが、予習・復習時間が減る傾向や遅刻が散見される傾向を是正する措置を別途講じるつもりである。その他については、例年どおりの方向性を変更する必要はないと思われ、補完的に受講生の学習意欲を高めるよう講義内容の理解のポイントをわかりやすく明示し、より正確な理解を促すよう工夫を講じるつもりである。

科 目	上級管理会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	27	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.13	4.33	5	5	2
2	3.50	3.25	3	5	3
3	3.90	4.08	4	5	2
4	4.03	4.25	5	5	2
5	4.07	4.17	4	5	1
6	3.97	4.00	4	5	2
7	4.13	4.00	4	5	1
8	4.43	4.17	4	5	3
9	4.17	4.25	4	5	3
10	3.53	4.25	4・5	5	3
11	4.07	4.25	4	5	2
12	4.80	4.67	5	5	4
13	2.34	2.17	1	5	1
14	3.24	2.75	2	5	1
15	4.03	3.92	4	5	3
16	4.07	4.25	4	5	3
17	4.03	4.25	4	5	3
回答者数	30	12			



受講生の傾向

本講義は、必修科目である基本科目のひとつとして位置付けられる。受講者は基本的には、毎回真面目に出席していた。しかしながら、受講者間の知識のばらつきは大きかったと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の授業評価アンケートでは、多くの項目で評点が低下していたため、本年度では、授業を全体的に丁寧に行うように心がけた。また、新型コロナウイルス問題に伴い、講義資料をLMSにアップロードするなど、いくつかの点で授業方法の変更を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

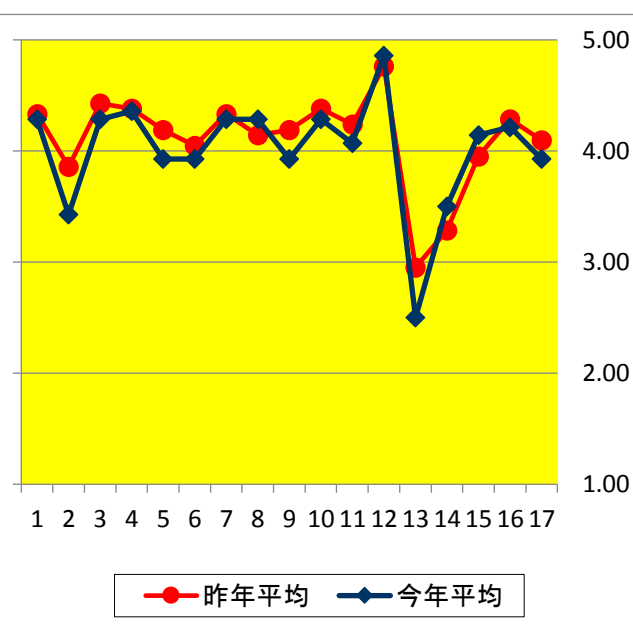
全体的な評点が昨年度から低下していた。そのため、説明をさらに丁寧に行うなどの、きめ細かい対応を行う必要があると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

機材の利用方法、および受講生からの質問など、一部の項目で評点が低下していたが、全体としては評点が向上していた。そのため、現状の取り組みを継続したいと考えている。他方で、新型コロナウイルス問題に伴って、受講生との直接的なコンタクトが困難になっているため、質問対応等については今後の課題として検討が必要と考えられる。

科 目	監査制度論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋月4	
受講者数	32	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.29	5	5	2
2	3.86	3.43	3	5	2
3	4.43	4.29	5	5	3
4	4.38	4.36	5	5	3
5	4.19	3.93	4・5	5	2
6	4.05	3.93	4・5	5	2
7	4.33	4.29	4	5	2
8	4.14	4.29	5	5	2
9	4.19	3.93	4・5	5	2
10	4.38	4.29	4	5	3
11	4.24	4.07	5	5	2
12	4.76	4.86	5	5	4
13	2.95	2.50	1	5	1
14	3.29	3.50	5	5	1
15	3.95	4.14	5	5	3
16	4.29	4.21	4	5	3
17	4.10	3.93	4	5	2
回答者数	21	14			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%以上となっており、極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。但し、対面とオンラインのハイブリッドによる講義となった点を考慮する必要がある。

しかし、昨年度の秋学期の評価に比べると、講義進度はほぼ適切となったものの(項目2)、全体的に評価が低下してしまった。特に教員側の説明の仕方(項目5)と講義資料の配付(項目6)、宿題や小テスト(項目9)といった項目、ならびに満足度(項目11)のほぼ全ての項目において、昨年実績より低下している。また、課題予習(項目13)に対する時間は低下しているのに対して、復習時間(項目14)は若干改善している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

例年通り監査基準及び監査実務指針を反映した網羅的かつ体系的なパワーポイントによるスライドに加えて、ハイブリッド対応のために資料及び説明を追加した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布用の資料は、事前に関西大学LMSにアップロードし、WEB配信により受講生が予習・復習をできるようにした。

2回分の講義の理解度を確認する目的と復習を動機付けるために、対面及びオンラインで小テストを実施し翌週までにそれらを添削しコメントを記載した上で各個に返却した。当該返却に当たっては、返却時の講義の冒頭で添削上のポイントを解説した。最終的に、講義2回→復習課題実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

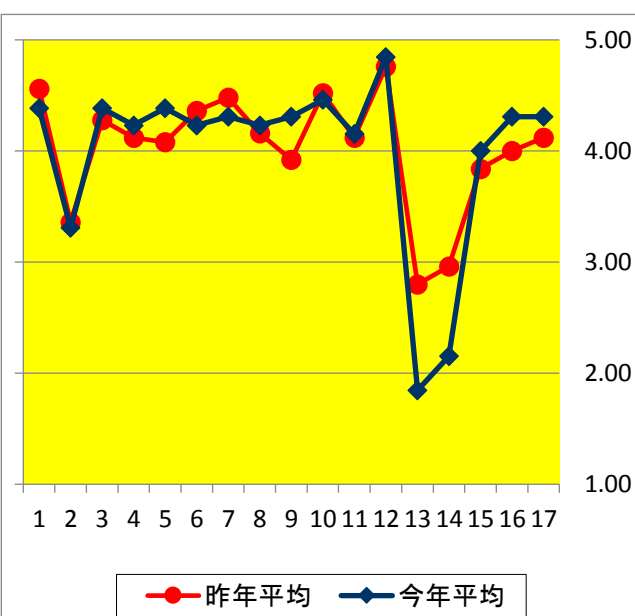
今年度クラスBの特徴は、留学生が相対的に多かったことにある。このため全体的な評価が下がったと推測される。これは、授業進度(項目2)が例年に比して「早い」という回答が多くなっている点に表われている。従って、次年度は、留学生比率に応じた授業進度の工夫が必要になると思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コロナ禍の影響を受けた授業が続くため、講義形式が対面とオンライン、或いはオンラインのみでの形態となる場合、どうしても一方通行の講義となることを前提に小テスト等による教育効果の確認方法を考えないといけない。特に添削済み小テスト解答用紙の見直しを促すような措置を講じることにしたい。

科 目	監査基準論<監査基準>(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	18	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.38	4	5	4
2	3.36	3.31	3	4	3
3	4.28	4.38	4	5	4
4	4.12	4.23	4	5	3
5	4.08	4.38	4	5	4
6	4.36	4.23	4	5	2
7	4.48	4.31	4	5	3
8	4.16	4.23	4	5	3
9	3.92	4.31	5	5	3
10	4.52	4.46	4	5	4
11	4.12	4.15	4	5	3
12	4.76	4.85	5	5	4
13	2.80	1.85	1	4	1
14	2.96	2.15	2	4	1
15	3.84	4.00	4	5	3
16	4.00	4.31	4	5	4
17	4.12	4.31	4	5	3
回答者数	25	13			



受講生の傾向

予習時間が昨年平均の1時間程度から30分程度まで減少してしまっている。
復習時間も昨年平均の1時間程度から30分程度まで減少してしまっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期のアンケートを踏まえて、秋学期は授業スピードを抑制し、提示資料も削減した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

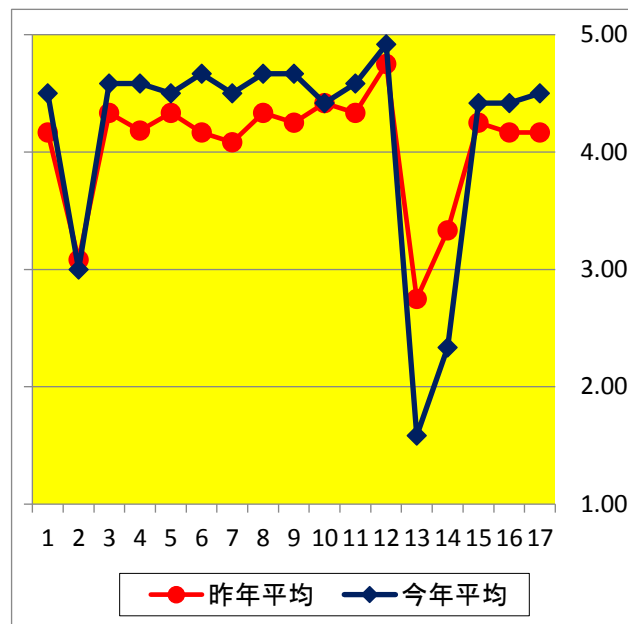
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業スピードや話す速度は引き続き抑制する。
提示資料もより削減する。
授業の最後に質問の時間を取りたい。

科 目	企業法(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	26	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.50	4・5	5	4
2	3.08	3.00	3	4	2
3	4.33	4.58	5	5	4
4	4.18	4.58	5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	4.17	4.67	5	5	4
7	4.08	4.50	4・5	5	4
8	4.33	4.67	5	5	4
9	4.25	4.67	5	5	4
10	4.42	4.42	4	5	4
11	4.33	4.58	5	5	4
12	4.75	4.92	5	5	4
13	2.75	1.58	1	3	1
14	3.33	2.33	2	4	1
15	4.25	4.42	4	5	4
16	4.17	4.42	4	5	4
17	4.17	4.50	4・5	5	4
回答者数	12	12			



受講生の傾向

今年度は、受講生が26名という秋学期としては多い人数であった(通常は春学期に企業法の多くの学生が集中する)。今年度の入学者数が多いというのもあったかもしれないが、春学期の企業法がコロナ禍の中で行われたこともあり、対面授業となる秋学期に多くの学生が受講したように思われる。また、コロナ禍という事情の下で、数名の配慮学生(対面授業以外で対応)があった。このような状況下においても、出席率は良く(対面以外での参加も含む)、授業に対してまじめに取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、学術研究員期間であったため、私自身が本授業を行うことはなかった。しかしながら、今回の授業で工夫した点としては、上でも記載したが、対面で受講する学生と対面の形式で授業に参加できない学生とが存在したので、双方に対して十分な教育を提供できるよう工夫した。対面授業については通常通りであるが、ソーシャルディスタンスを心掛けるなど気を使い、対面で参加できない学生に対しては、ビデオ配信を見ても十分理解できるようにし、教室にいないことで気の抜けることがないように、課題等にも留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

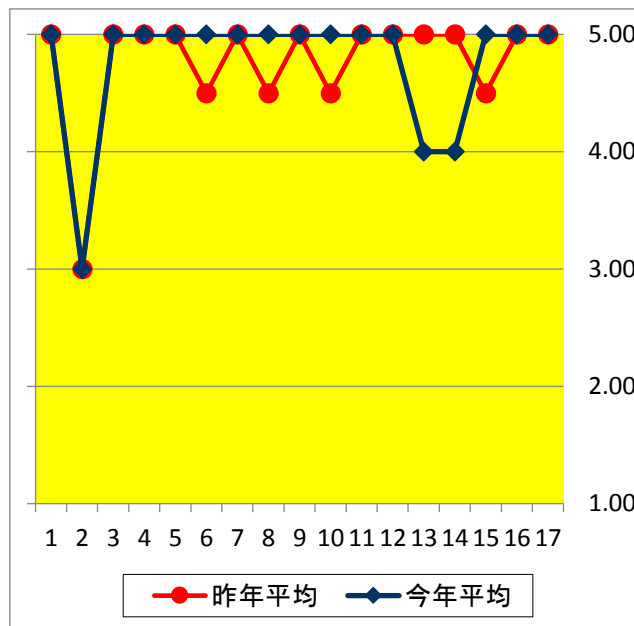
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度はコロナ禍という非常に特殊な状況であったと思う。しかしながら、今後は収束するのか、またどのような状況になるかわからないので、今後も対面授業に参加できない学生についての配慮というものに取り組む必要がある。特に、対面授業参加者との公平さは担保していかなければならない。

科 目	会計専門職業倫理(B)			
配当年次	2	開講時限	秋水2	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.00	3・5	5	3
14	5.00	4.00	3・5	5	3
15	4.50	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	2			



受講生の傾向

受講者2名であった。両者とも他の基本科目の理解度や学習の習得度合いは高いと見え、本授業内容に関しても良く理解し、積極的に参加する姿勢が見られた。秋学期は少人数となることが多く、事例研究等の実施方法に苦慮するが、以上の状況から、今回は2名であっても進めやすかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者2名の学習進捗度がかかなり進んでいたこと、積極的な参加意欲が見られたことから、講義内容については十分理解できたのではないと思う。後半の事例研究では受講生の希望も取り入れ事例を選んだ。特に非財務業績の改ざん等に係る事例研究は今回が初めてであったが、両者とも適切に準備をしてプレゼンを完成させた。講義、プレゼンとも極力双方向のコミュニケーションを心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

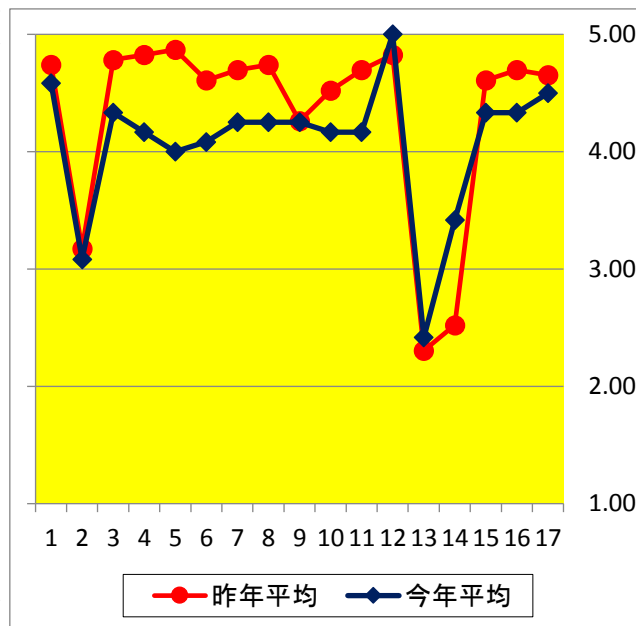
受講者が極端に少ない学期の授業の進め方には苦慮している。概ね春学期と同じレベルを保ちながら、より受講者の要望や興味に沿った内容としていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2021年秋学期は10名程度の受講生を予定している。基本的な講義内容については春学期とのレベルを合わせ、事例研究等応用分野については受講生の希望も取り入れ、授業の構成を考えていきたい。

科 目	企業分析論			
配当年次	1	開講時限	秋火3	
受講者数	25	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.74	4.58	5	5	4
2	3.17	3.08	3	5	2
3	4.78	4.33	4	5	3
4	4.83	4.17	5	5	3
5	4.87	4.00	3・4・5	5	3
6	4.61	4.08	5	5	3
7	4.70	4.25	4・5	5	3
8	4.74	4.25	4・5	5	3
9	4.26	4.25	4・5	5	3
10	4.52	4.17	4	5	3
11	4.70	4.17	4	5	3
12	4.83	5.00	5	5	5
13	2.30	2.42	2	5	1
14	2.52	3.42	3	5	2
15	4.61	4.33	4	5	3
16	4.70	4.33	5	5	3
17	4.65	4.50	4・5	5	4
回答者数	23	12			



受講生の傾向

会計の延長戦としての企業分析を志向していて、実際のアナリストが行うようなファイナンスの考え方にに基づき、将来を予測するというやり方についてこれない学生が多かった。その中で、一部の学生は将来を見据え、コンサルティングのために様々な手法や考え方で勉強したいということで、高い意欲をもって学習していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

実際のアナリストが行うような企業分析のやり方や考え方を講義しようと盛沢山な授業計画を立てていたが、学生が消化不良を起こし、過去分析に集中するという変更を行ってついてきてもらうことができた。受講生の傾向にも記載したように、企業会計の延長戦として、比率分析で割り算をするだけとの認識で受講する学生が多く、ファイナンスの知識が乏しいため、比率分析だけでもその意味が分かっていない場合が多く、結果的に授業範囲を絞ることになった。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

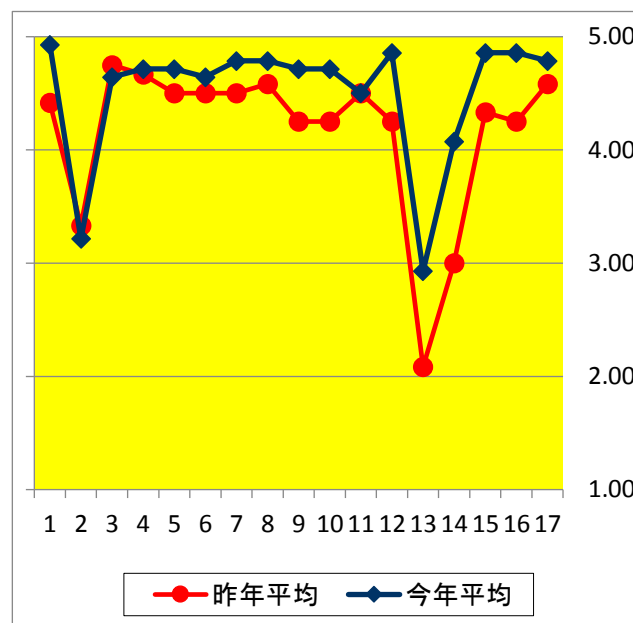
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

現実の有望証券報告書を基に企業を分析するというスタイルは維持しながら、欲張らずに、過去分析を中心にして、財務指標の内容や使い方等に特化し、より深い企業分析を行いたい学生にはプロフェッショナルソリューションに誘導するようにした方が教育効果が高いと思われる。

科 目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	秋金4	
受講者数	15	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.93	5	5	4
2	3.33	3.21	3	5	2
3	4.75	4.64	5	5	4
4	4.67	4.71	5	5	4
5	4.50	4.71	5	5	4
6	4.50	4.64	5	5	4
7	4.50	4.79	5	5	4
8	4.58	4.79	5	5	4
9	4.25	4.71	5	5	4
10	4.25	4.71	5	5	4
11	4.50	4.50	5	5	3
12	4.25	4.86	5	5	4
13	2.08	2.93	2	5	1
14	3.00	4.07	5	5	2
15	4.33	4.86	5	5	4
16	4.25	4.86	5	5	4
17	4.58	4.79	5	5	4
回答者数	12	14			



受講生の傾向

本科目は公認会計士試験に直結する選択科目であるので、受講生の出席状況(項目12)はほぼ90%を確保し高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。また予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も昨年度より改善しているように、全ての項目で昨年実績よりも改善している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査報告に関連する監査基準改訂がなされたため、該当箇所に関する講義資料を新規に作成し配布するとともに、重要論点とともに解説を加えた。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列举した。さらにこれら配布資料の全ては授業当日中に関西大学LMSにアップロードし、オンデマンドによる授業録画WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

例年通り前2回分の理解度を確認するための記述式小テストを隔週で授業時間冒頭に20分程度で実施し、添削して返却すると同時に添削時のポイントを全員に配布し解説を行った。返却時に論点の講評を行うことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

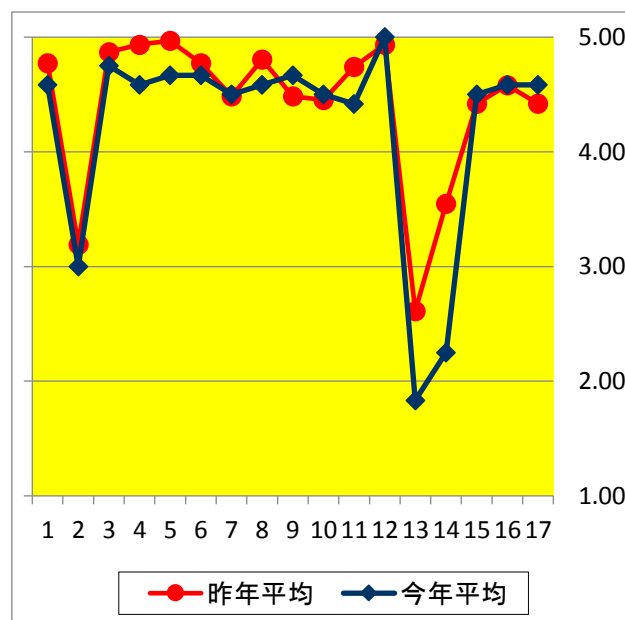
小テストによる予復習の動機付けに加えて、監査報告に関心を持たせるために実際の監査報告書の収集と分析を要求することで予復習に前向きに取り組ませたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の実績を踏まえ、講義→復習(小テスト)→添削→返却・講評→小テストの見直しという好循環を可能とするよう引き続き努力する。

科 目	会社法			
配当年次	1	開講時限	秋木1	
受講者数	26	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.77	4.58	5	5	4
2	3.19	3.00	3	4	2
3	4.87	4.75	5	5	4
4	4.94	4.58	5	5	4
5	4.97	4.67	5	5	4
6	4.77	4.67	5	5	4
7	4.48	4.50	4・5	5	4
8	4.81	4.58	5	5	4
9	4.48	4.67	5	5	4
10	4.45	4.50	4・5	5	4
11	4.74	4.42	5	5	3
12	4.94	5.00	5	5	5
13	2.61	1.83	2	3	1
14	3.55	2.25	2	3	1
15	4.42	4.50	5	5	3
16	4.58	4.58	5	5	4
17	4.42	4.58	5	5	4
回答者数	31	12			



受講生の傾向

今年の受講生は26名と昨年よりもやや少ない数となった。さらにコロナ禍の中、配慮学生も存在したため、実際に教室で対面授業を行った学生はより少なかった。しかしながら、対面授業に出席している学生は非常にまじめに取り組む、また配慮学生についても出席はできないながらも課題をしっかりとこなすなど大変熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会社法は、基本科目として学んだ企業法の学習内容をさらに発展させるものであるから、この両科目を連携させて授業をすることが需要である。今年度は会社法と企業法が同一の曜日に存在したため、このつながりを特に受講生には強く意識してもらいながら授業を行った。なお、この両科目を同時履修している学生もかなり多かった。ただ、学習する順序としては、企業法(基本科目)を学んでから会社法(発展科目)を学ぶべきであるため、時間割上会社法が先に授業があったので少し進行に苦労した(会社法1限、企業法4限)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

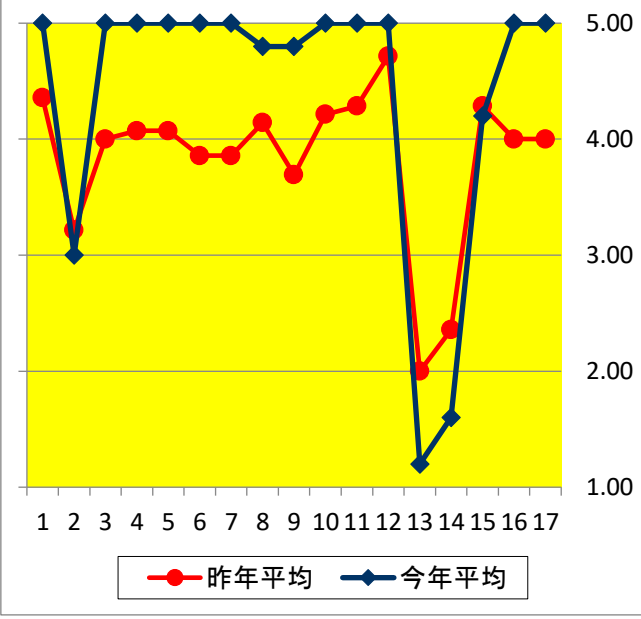
今年度は特殊な状況(学術研究員期間の関係で、通常秋学期開講のところ、春学期の開講となった)であったが、企業法と会社法との連携を強く心がけて相互の理解が深まるよう、効率的な授業を行った。しかしながら、当該年度に企業法と会社法を受講した学生は、次につながる上級会社法を受講には、1年間というブランクが生じてしまう。上級会社法との連携についても工夫をする必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上でも述べたが、会社法と企業法とのつながりが重要であって、企業法(秋学期)の授業進度が会社法の授業内容に大きく影響することとなる。企業法(秋学期)の進度と会社法の授業進度がうまく一致すれば、学習効果も大いに上がると思うので、この点を強く配慮したい。また、そういう意味では授業の順序としては企業法を学習したのちに会社法を学習するべきであるので、時間割上の工夫もするようにしたい。

科 目	特殊講義(病院経営の勤どころ・日本経営グループ寄附講座)			
配当年次	1	開講時限	秋後月6～7	
受講者数	6	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.36	5.00	5	5	5
2	3.21	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.07	5.00	5	5	5
5	4.07	5.00	5	5	5
6	3.86	5.00	5	5	5
7	3.86	5.00	5	5	5
8	4.14	4.80	5	5	4
9	3.69	4.80	5	5	4
10	4.21	5.00	5	5	5
11	4.29	5.00	5	5	5
12	4.71	5.00	5	5	5
13	2.00	1.20	1	2	1
14	2.36	1.60	2	2	1
15	4.29	4.20	5	5	1
16	4.00	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	14	5			



受講生の傾向

昨年度実績に比して、受講生の参加率(項目12)がほぼ100%となっており、講義には極めて積極的な参加が見受けられる。その場で随時与えられる課題に対するグループワークが多いため、予復習時間(項目13と14)が低くなるのはやむを得ない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度が寄附講座として2年目の開講となるが、講師による受講生に対するモラル向上のための質疑応答時間の確保や、講義後半に実施されるグループワークの設定などによって、受講生の満足度(項目11)は非常に高くなっている。また全ての項目で極めて高い評価が得られているので、講義方法は非常に工夫されたものとなっている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

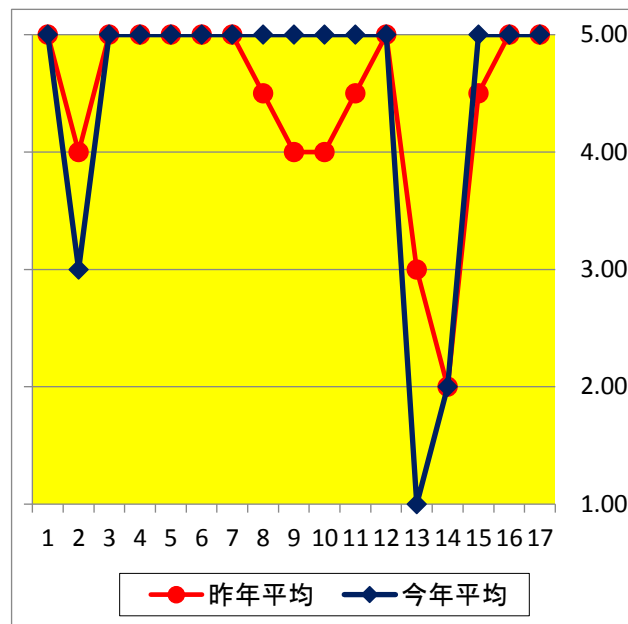
本科目の特徴は、社会人受講生と会計研究科院生とのグループワークによる相互研鑽にあるため、できる限り効果的なケース提供とそれに基づくグループワークによって理論と実践の融合を可能としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度2021年度が寄附講座最終年度となるため、本科目の特徴である社会人受講生と会計研究科院生とのグループワークによる相互研鑽が可能となるよう効果的なケース提供による理論と実践の融合を可能としたい。

科 目	IFRS会計論＜国際会計基準論＞			
配当年次	2	開講時限	秋火4	
受講者数	3	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	4.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.00	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	1.00	1	1	1
14	2.00	2.00	2	2	2
15	4.50	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生が3人であったため、同時にその3人は非常にまじめな学生であったため、毎回真摯に受講していた。また、ディスカッションにおいては、3人とも積極的に参加していた。ただし、ディスカッションの流れで次回分の講義資料の配布が遅くなり、そのため予習に反映しづらかったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の担当ではないが、昨年度も受講生の人数が少なかったことと、一昨年度を踏まえると、受講生が少なかったため、受講生の興味を可能な限り把握し、それに合わせて説明を行い、ディスカッションへと発展するよう、またそれによって理解が深まるよう議論を誘導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

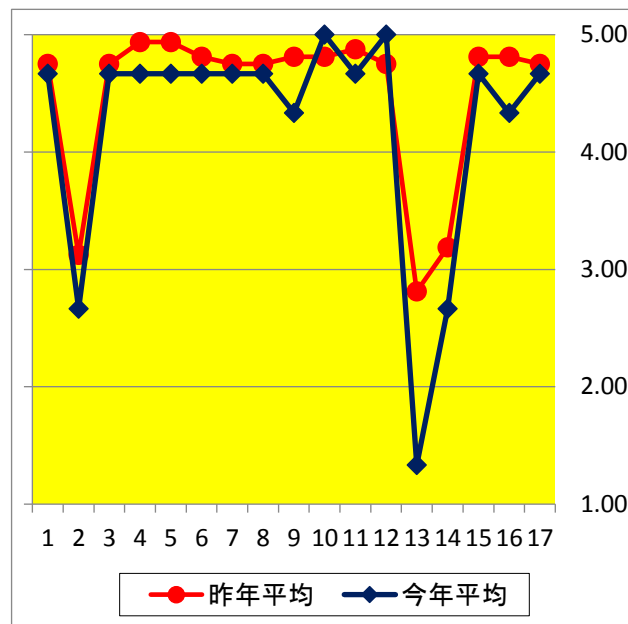
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の担当ではないため、昨年度の「今後の対応」を踏まえることはできないが、一昨年度において、講義中心に力点を変更し、受講生の満足度が下がる傾向があったため、今年度と同様にディスカッションを促し、同時に、各回の講義内容のポイントを明確にし、エッセンスに充分焦点をあて、IFRSの理解がしやすいように調整するつもりである。

科 目	上級会社法			
配当年次	2	開講時限	秋月3	
受講者数	5	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.67	5	5	4
2	3.13	2.67	3	3	2
3	4.75	4.67	5	5	4
4	4.94	4.67	5	5	4
5	4.94	4.67	5	5	4
6	4.81	4.67	5	5	4
7	4.75	4.67	5	5	4
8	4.75	4.67	5	5	4
9	4.81	4.33	4	5	4
10	4.81	5.00	5	5	5
11	4.88	4.67	5	5	4
12	4.75	5.00	5	5	5
13	2.81	1.33	1	2	1
14	3.19	2.67	1・3・4	4	1
15	4.81	4.67	5	5	4
16	4.81	4.33	4	5	4
17	4.75	4.67	5	5	4
回答者数	16	3			



受講生の傾向

今年度は私の学術研究の関係で通常は春学期開講であるところ、秋学期開講となったが、その影響もあるかもしれないが受講生が5名と昨年に比べると少なかった。また、コロナ禍の中での授業となったが、配慮を要する学生はなく、すべて対面授業に参加しており、さらにはその授業出席率も高かった。これらの受講生全員の学力および授業態度ともに非常に良かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上でも記述したが、受講生のレベルが高く、受講生も多くなかったこともあり、比較的きめ細かく論文指導を行った。また、授業内容も難易度の高い論点に踏み込んで指導することができた。すなわち、今回の授業では受講生のレベルや目的（公認会計士志望）に沿った授業を行うことができたと思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

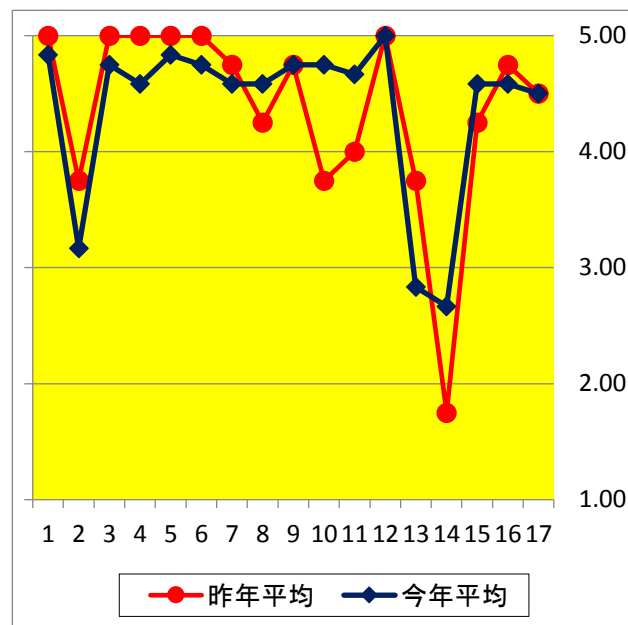
これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していきたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたいと、示したように、本授業では対話や論文作成指導を通じて、各受講生の学習進度やレベルを把握して、きめ細かな指導を行っていききたい。そして、企業法および会社法と継続する科目であるので、これまでの各受講生の学習進度・レベルや弱点等を把握したうえで、効率的な授業を進める工夫を行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度はコロナ禍の中の授業であったが、全員が対面出席可能であったためにその影響は少なかったが、今後このような状況の中で対面以外での授業を余儀なくされる場合においても、柔軟に対応できるよう準備が必要となる。さらには今年度は全受講生のレベルが高かったが、今後はこれにばらつきが出る可能性は十分にある。各学生のレベルを把握したうえで、全受講生が満足できる授業を心掛けたい。

科 目	租税法理論			
配当年次	2	開講時限	秋木3	
受講者数	12	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.83	5	5	4
2	3.75	3.17	3	4	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	4.58	5	5	4
5	5.00	4.83	5	5	4
6	5.00	4.75	5	5	4
7	4.75	4.58	5	5	4
8	4.25	4.58	5	5	3
9	4.75	4.75	5	5	4
10	3.75	4.75	5	5	4
11	4.00	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.75	2.83	2・4	4	1
14	1.75	2.67	2	5	1
15	4.25	4.58	5	5	4
16	4.75	4.58	5	5	3
17	4.50	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	12			



受講生の傾向

受講生12名の内訳は、税理士志望10名、国税専門官志望1名、留学生1名であった。質問No.13及び14の結果から、受講生は、昨年度とは逆に、予習ではなく、復習に時間をかけて、授業に臨んでいたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、租税法規の当てはめ(法の適用)については、公認会計士試験の過去問を題材として、受講生との議論に重点をおくスタイルを採用した。次に、租税判例の理解については、課題レポートに取引図を必ず記載させ、かつ、授業内で事件の概要を報告させることにした。また、ホワイトボードや講義レジュメには、受講生の理解向上を促進すべく、取引図やフローチャートなどを出来る限り示すように心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

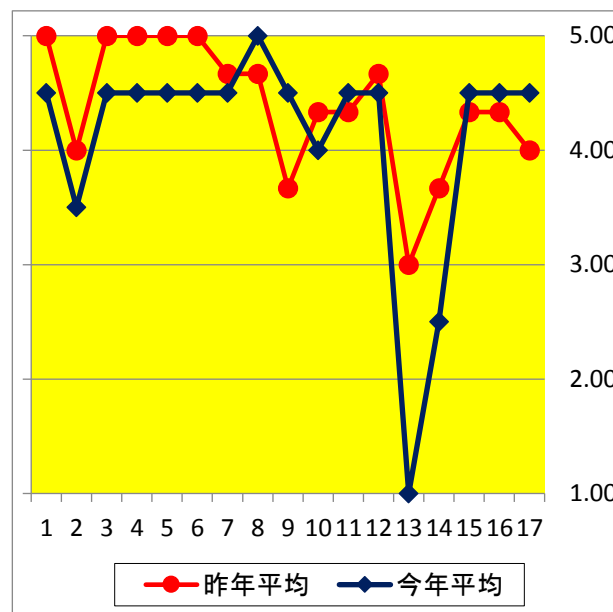
租税法規の当てはめ(法の適用)を苦手とする受講生が多かった。この点を改善するため、まずは法の適用の三段論法を解説し、次に、争点及び判示の論理構成を図で示すことによって、受講生の租税判例に関する理解向上を目指したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

租税法規の当てはめ(法の適用)及び租税判例の理解については、今年度の方法は有効と思われる。次年度も採用したい。なお、公認会計士試験の過去問については、受講生に実際に解答を書かせることが重要である。そのための時間を授業時間内で確保するため、講義内容及び講義レジュメの更なる見直しを行う予定である。

科目	租税法会計論			
配当年次	2	開講時限	秋月4	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	4.00	3.50	3・4	4	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.50	4・5	5	4
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	4.67	4.50	4・5	5	4
8	4.67	5.00	5	5	5
9	3.67	4.50	4・5	5	4
10	4.33	4.00	3・5	5	3
11	4.33	4.50	4・5	5	4
12	4.67	4.50	4・5	5	4
13	3.00	1.00	1	1	1
14	3.67	2.50	2・3	3	2
15	4.33	4.50	4・5	5	4
16	4.33	4.50	4・5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

受講生2名の内訳は、会計士志望1名、国税専門官志望1名であった。また、前者は、所得税法及び消費税法の既修者であったが、後者は初学者であった。質問No.13が示す通り、今年度の受講生は昨年度と異なり、復習にのみ時間をかけていたようである。なお、質問No.8の結果は、昨年度よりも受講生からの質問が授業時間内に多く、それに対応した結果であると思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初学者への対応として、第一に、授業の進度を昨年度よりも緩めた(質問No.2)。第二に、各項目に関する公認会計士試験の過去問を授業時間内で必ず解答させ、計算プロセスの習熟を目指した(質問No.8)。第三に、授業時間内に解答しきれない過去問については、講義レジュメに計算プロセスも含めた解答を記載し、受講生にそれを復習するよう指導した(質問No.14)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

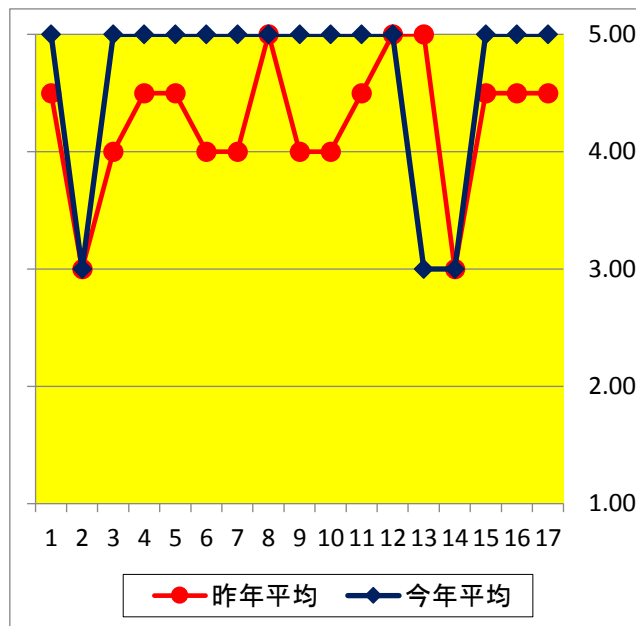
カリキュラムの関係から、本科目では所得税法と消費税法に関する税務会計を次年度も取り扱う。気をつけるべき点は本年度と同様、税務会計の初学者への対応である。公認会計士試験の過去問を題材に解答プロセスを共有し、初学者の理解向上を目指したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

初学者に対する今年度の対応は、有効であった。ただ、今年度は受講生が2名で、かつ、初学者が1名という特殊な状況であったためとも考えられる。次年度は、初学者が増えた場合でも有効となる対応を進めたい。また、これまでの傾向として、所得税法よりも消費税法を苦手とする初学者が多い。そのため、次年度は、消費税法に関する講義内容及び講義レジュメの更なる改善を目指す予定である。

科 目	コーポレート・ファイナンス論			
配当年次	2	開講時限	秋木2	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.00	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	3.00	3	3	3
14	3.00	3.00	3	3	3
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講者は1名のみで、学習意欲は高いが、必ずしも能力が追いついていない傾向があった。はじめは見当はずれの受け答えをしていたが、徐々に理解を深めていった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者が1名のため、一方的講義にならないように工夫するとともに、能力に合わせて課題等について配慮を行った。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

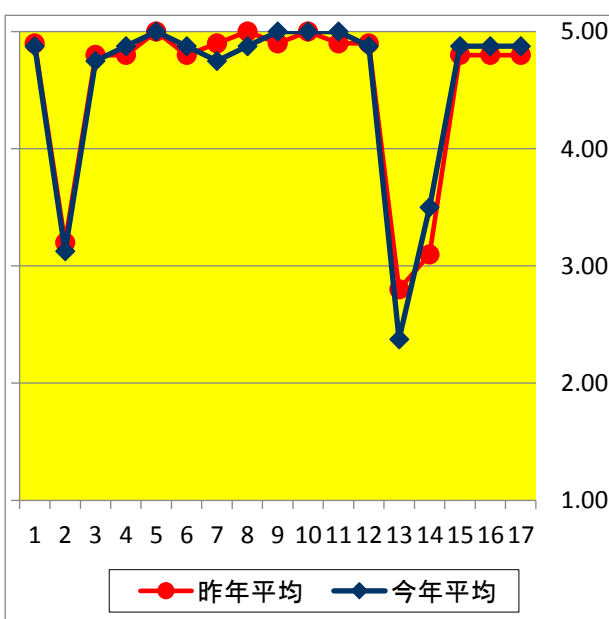
今回は、受講者が2名で、両名とも学ぼうとする姿勢があり、例を交えながらどんどん授業を進めることができた。受講者が増加しても減少しても、同様の授業を行っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

春学期のコーポレートファイナンスの受講者が学修することで、ファイナンスの全体像を把握できるようになってほしいと考えており、そのような広報的な働きかけを行っていきたい。また、学生の質が変わっても、それに対応して臨機応変に教育を行いたい。

科 目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	21	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.90	4.88	5	5	4
2	3.20	3.13	3	4	3
3	4.80	4.75	5	5	4
4	4.80	4.88	5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.80	4.88	5	5	4
7	4.90	4.75	5	5	4
8	5.00	4.88	5	5	4
9	4.90	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	4.90	5.00	5	5	5
12	4.90	4.88	5	5	4
13	2.80	2.38	1	5	1
14	3.10	3.50	3	5	2
15	4.80	4.88	5	5	4
16	4.80	4.88	5	5	4
17	4.80	4.88	5	5	4
回答者数	10	8			



受講生の傾向

基本的にほとんどの受講生が真摯に受講していたと思われる。昨年度と比較すると例年と比較し、2年次生の受講生の割合が高かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各授業の前半では必ず板書によってポイントを明確にし、その後、演習時の机間巡回時に個別に状況を見つつ追加の説明を施したり、その状況によっては受講生全体に再度説明を行うなど、受講生の理解が深まるよう工夫を講じた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

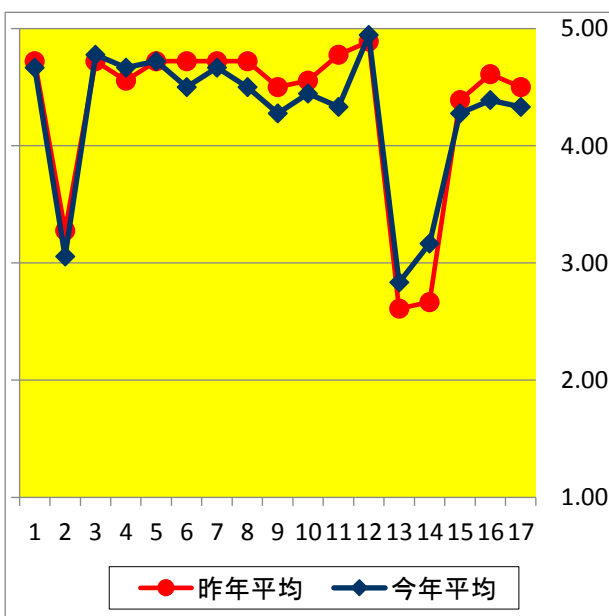
受講者数が例年どおりに戻った場合でも、今年度と同様に、受講生の個々人の理解度を把握するよう留意し、机間巡回時に正確に理解して理解度を深めるための追加の説明や、追加的な受講生全体への説明（板書を含む）を行い、ノートにまとめるよう促すなどの工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の「今後の対応」を踏まえて今年度の授業を実施した結果、方向性の変更が必要となるようなアンケート結果ではなかったと考える。そのため、授業のポイントを理解しやすいよう板書を含めた説明と演習時の個々の実施状況を踏まえた補足説明を丁寧に実施していくつもりである。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	21	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.72	4.67	5	5	4
2	3.28	3.06	3	4	3
3	4.72	4.78	5	5	4
4	4.56	4.67	5	5	4
5	4.72	4.72	5	5	4
6	4.72	4.50	5	5	3
7	4.72	4.67	5	5	4
8	4.72	4.50	4・5	5	4
9	4.50	4.28	5	5	3
10	4.56	4.44	5	5	3
11	4.78	4.33	4	5	3
12	4.89	4.94	5	5	4
13	2.61	2.83	4	5	1
14	2.67	3.17	4	5	1
15	4.39	4.28	4	5	3
16	4.61	4.39	5	5	3
17	4.50	4.33	4	5	2
回答者数	18	18			



受講生の傾向

リモート授業によりグループディスカッションを個人発表に変更したため、事前の講義要項と違っており、全体満足度が0.5ポイント昨年平均に比べ下がってしまった。

また、関大LMSへの資料添付とし、紙ベースの資料配布を行わず、スライド投影で進めた点も影響している可能性がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回初めての授業なので、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて今回工夫、留意した点はありません。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

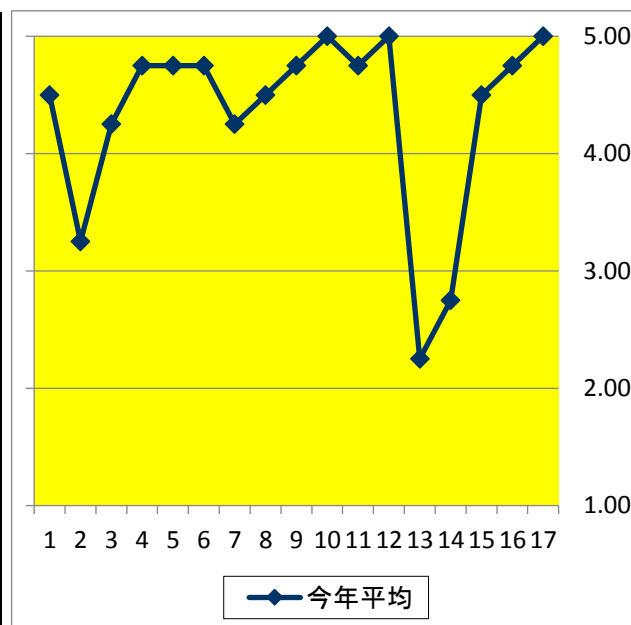
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問の時間は授業の最後に確保する。

グループディスカッション方式を採用していない点は、初回授業で説明する。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（富田クラス）			
配当年次	1	開講時限	通隔月5	
受講者数	7	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.25	3	5	2
3	—	4.25	4	5	4
4	—	4.75	5	5	4
5	—	4.75	5	5	4
6	—	4.75	5	5	4
7	—	4.25	5	5	2
8	—	4.50	5	5	3
9	—	4.75	5	5	4
10	—	5.00	5	5	5
11	—	4.75	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.25	1	5	1
14	—	2.75	2	5	2
15	—	4.50	5	5	3
16	—	4.75	5	5	4
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	4			



受講生の傾向

隔週通年開講であり、春学期はZoomによるオンライン、秋学期は対面での実施であった。授業の実施形態にかかわらず、受講生は概ね真摯に受講していたが、春学期のオンラインでの実施には戸惑いがあったようである。毎回の授業内容を明示していたが、予習・復習にあてられる時間はあまり多くはなかったようである。また、昨年度実施していなかったためか、2年次生の受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度担当していないため、昨年度の授業評価アンケートの結果を踏まえることはできないが、隔週通年開講に変更されたため、学生の学習意欲が下がらないよう授業実施日の設定に工夫を講じた。また、春学期にはオンラインでの開講であったため、資料作成の課題をとりやめ、関大LMSでの演習の実施や内容説明に重点をおいた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

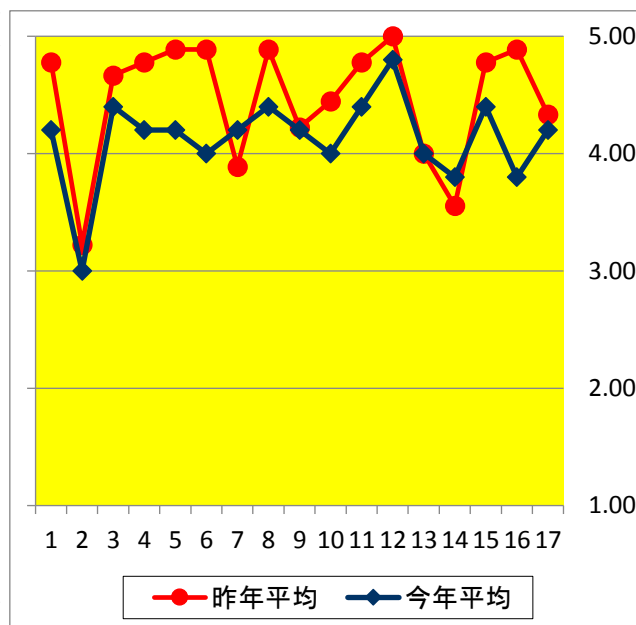
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度は担当していないため、昨年度の「今後の対応」踏まえることはできないが、今年度はレクチャーと課題演習との組み合わせで実施した結果、授業の満足度(質問16/17)は高めではあるものの、予習・復習時間が大幅に下がっていることを踏まえ、各回の論点を明確にした上で、受講生の主体的なディスカッションとそれに先立つ資料作成課題を重視する方向に修正するつもりである。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（中村クラス）			
配当年次	1	開講時限	通隔月5	
受講者数	9	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.20	4	5	4
2	3.22	3.00	3	3	3
3	4.67	4.40	4	5	4
4	4.78	4.20	4	5	4
5	4.89	4.20	4	5	4
6	4.89	4.00	4	5	3
7	3.89	4.20	4	5	4
8	4.89	4.40	4	5	4
9	4.22	4.20	4	5	4
10	4.44	4.00	4	5	3
11	4.78	4.40	4	5	4
12	5.00	4.80	5	5	4
13	4.00	4.00	3・5	5	3
14	3.56	3.80	3・4	5	3
15	4.78	4.40	4	5	4
16	4.89	3.80	3・4	5	3
17	4.33	4.20	4	5	4
回答者数	9	5			



受講生の傾向

9名の受講生は全て、税理士志望者であった。また、受講者の中で法学部出身者は1名しかおらず、他の受講生は、判例分析の初学者であった。なお、質問No.7が昨年度よりも良い評価となっているが、授業内容には大きな変更がない。その点からすると、本授業がZoomによるオンライン授業であったことが良い評価につながったように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」の通り、グループによる質疑応答の時間をできる限り多くとるように、授業内の時間配分に留意した。また、本授業は、コロナ禍の影響で、年間を通してZoomを使う授業となった。このため、対面型での指導と同様の教育効果を目指し、Zoomによるオンラインでの議論を積極的に行えるように取り進めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

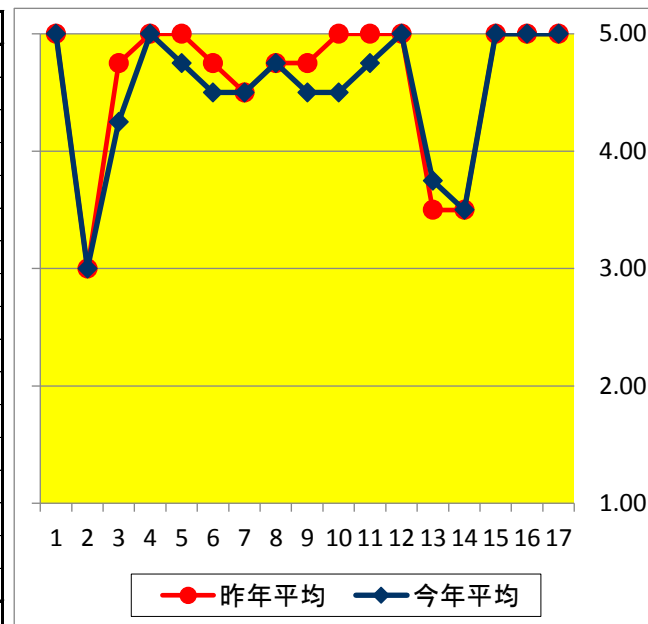
本年度で初めて採用したグループによる質疑応答形式は、受講生の理解向上に貢献したと思われる。受講生が他の受講生の私見の作り方に関して、質問を行うようになっていったからである。以上から、報告のデモンストレーション及び私見の作り方を指導することも含め、本年度の方法を次年度も採用し、当該質疑応答形式の時間をより一層拡充したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度から継続採用したグループによる質疑応答形式は、本年度も受講生の理解向上に貢献したと思われる。むしろ、新たな課題が、形式面と実質面の2つから確認された。前者は不十分な引用表記であり、後者は判例分析後の私見の不十分さである。次年度は、これらの点に注意して指導を行っていきたい。

科 目	アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（松本クラス）		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	8	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.75	4.25	5	5	3
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.75	5	5	4
6	4.75	4.50	4・5	5	4
7	4.50	4.50	4・5	5	4
8	4.75	4.75	5	5	4
9	4.75	4.50	4・5	5	4
10	5.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	4.75	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	3.75	3	5	3
14	3.50	3.50	3・4	4	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	4	4			



受講生の傾向

受講生の授業参加意欲を測る出席率（項目12）においてはほぼ90%以上を達成しているが、演習のための予習時間（項目13）と復習（項目14）時間が1時間以上となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習生からの希望を聴取した上で監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討すると同時に解説を行った。複数の課題を事前に配布して予習を促し（項目13）と復習時間（項目14）も確保するように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

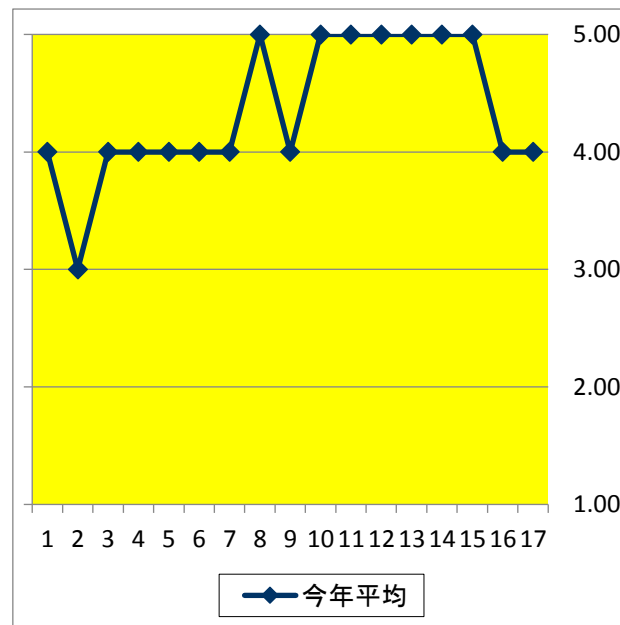
SNSを用いた情報共有は可能となったが、課題を適時に提供できるように工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

SNSを用いた教材・課題情報だけでなく、質問の受け付けと回答の提供を適時に行えるように措置したい。

科 目	論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(富田クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.00	4	4	4
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	4	4	4
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



受講生の傾向

マンツーマンでの開講であることもあり、毎回真摯に課題を実施し受講していたと思う。しかし、前半は特に課題の達成度が低く、課題実施のための注意事項を踏まえないで実施する傾向があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は不開講であったため、昨年度の授業評価アンケートを踏まえることはできないが、受講生のスキルおよび論文のテーマを考慮し、順にステップアップできるように課題を設定した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

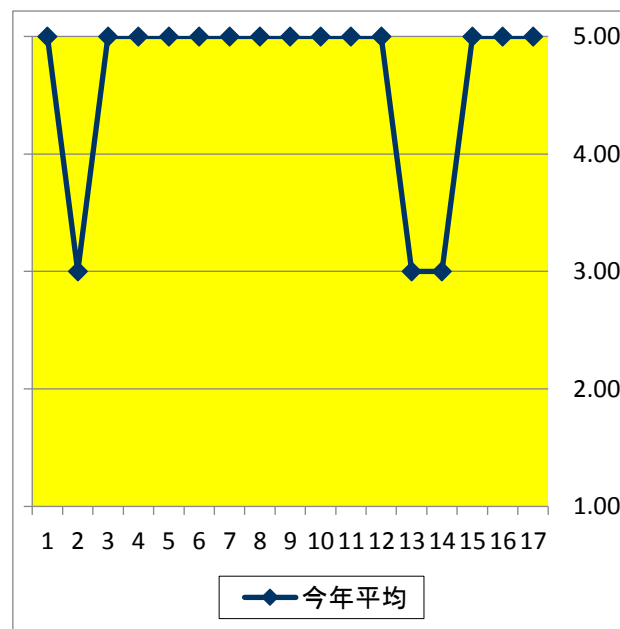
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度は不開講であったため、昨年度の「今後の対応」などを踏まえることはできないが、個別の指導が中心となる授業科目であるため、受講生の特性や性格、論文テーマの性質を踏まえて、過大とならないよう、しかし、十分なスキルを身につけられるよう課題を設定し、ステップアップできるように留意するつもりである。

科 目	論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火1
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	3	3	3
14	—	3.00	3	3	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

修士論文に相当するレポート作成に高い意欲を持っていたため、監査・保証業務に関する国際基準を積極的に読解し、論文に纏めることができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最新の国際基準に接することができるよう、国際監査・保証業務基準審議会 (IAASB) の審議内容及び検討結果を院生と共有し、その論文に反映できるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

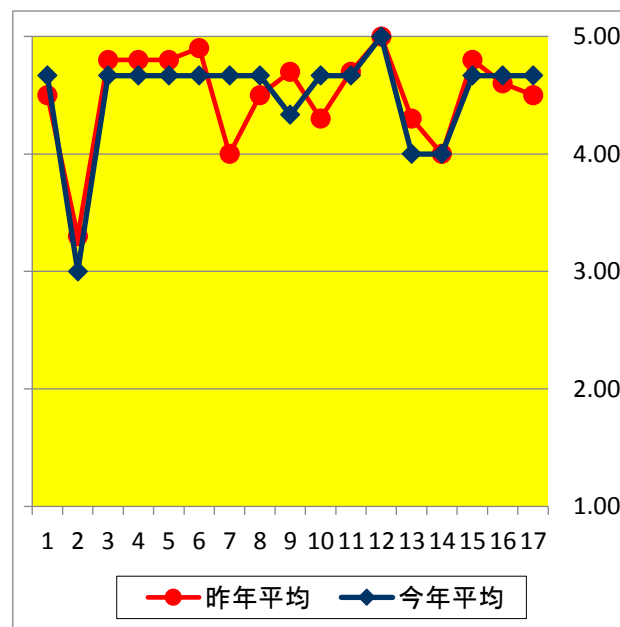
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度以降、監査及び保証業務に関する論文作成希望者が生じた場合、各人の希望する論点につき臨機応変に紹介できるようにしておきたい。

科 目	論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋土3
受講者数	9	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.67	5	5	4
2	3.30	3.00	3	3	3
3	4.80	4.67	5	5	4
4	4.80	4.67	5	5	4
5	4.80	4.67	5	5	4
6	4.90	4.67	5	5	4
7	4.00	4.67	5	5	4
8	4.50	4.67	5	5	4
9	4.70	4.33	5	5	3
10	4.30	4.67	5	5	4
11	4.70	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.30	4.00	3・4・5	5	3
14	4.00	4.00	5	5	2
15	4.80	4.67	5	5	4
16	4.60	4.67	5	5	4
17	4.50	4.67	5	5	4
回答者数	10	3			



受講生の傾向

受講生9名は、全て税理士志望者であった。また、多人数による論文指導となったが、昨年度と同様、質問No.10の結果の通り、多人数であることが受講生にとってマイナスとならず、むしろプラスとなったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生による報告の機会提供については、受講生の協力の下、4回の報告機会を確保できた。次に、データベース講習会については、コロナ禍の影響で、次年度に開催を延期せざるを得なかった。なお、本授業はZoomを使った授業であったため、対面型での指導と同様の教育効果を目指し、Zoomによるオンラインでの議論を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

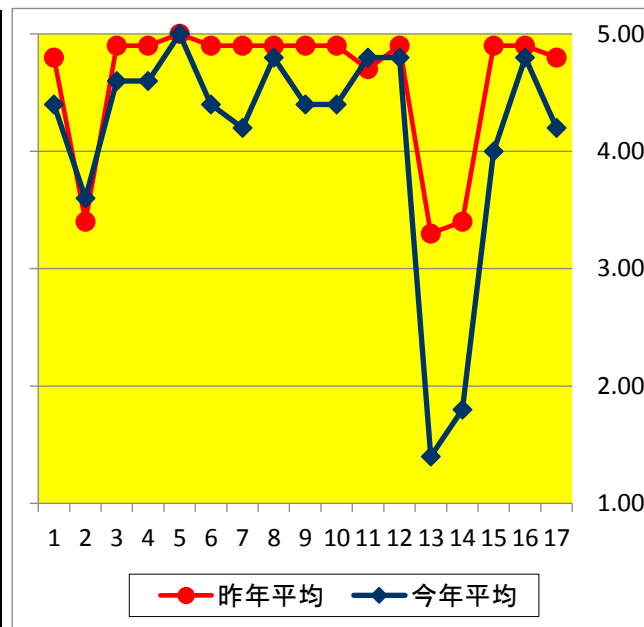
次年度も受講者数の多さが予想されている。このため、受講生に複数回の報告の機会を与えられるよう、スケジュールの事前決定を行いたい。また、受講生が論文執筆時に英米法のデータベースを有効活用できるようにするため、データベース講習会を実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

複数回の報告を通じて、論題設定のできる受講生がいる一方、論題設定のできない受講生がいる。後者の受講生の特徴として、研究テーマを何度も変更する傾向が見られた。次年度は、この点に留意し、後者の受講生への指導を行っていきたい。

科 目	実践会計プログラム演習			
配当年次	2	開講時限	秋水3	
受講者数	7	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.40	4	5	4
2	3.40	3.60	3	5	3
3	4.90	4.60	5	5	4
4	4.90	4.60	5	5	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.90	4.40	4	5	4
7	4.90	4.20	4・5	5	3
8	4.90	4.80	5	5	4
9	4.90	4.40	4	5	4
10	4.90	4.40	4	5	4
11	4.70	4.80	5	5	4
12	4.90	4.80	5	5	4
13	3.30	1.40	1	3	1
14	3.40	1.80	1・2	3	1
15	4.90	4.00	4・5	5	2
16	4.90	4.80	5	5	4
17	4.80	4.20	4	5	4
回答者数	10	5			



受講生の傾向

受講生5名、内訳は公認会計士志望者3名、国税専門官志望者1名、留学生1名は企業人の志望者であった。エクセルスキルの程度や既学習内容によって受講生の間で講義中の進度に差があること、留学生については講義、課題演習の取り組みに一部苦労している印象を受けた。出席率については概ね高く、講義への関心の高さが見て取れた。講義中の質疑、参加姿勢については、前向きに発言するよう取り組んでいる者が多かったが、既学習内容、エクセルスキルなどから一部受け身の姿勢となる者が出る講義回もあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

エクセルスキル、既学習内容による講義中の進度の差などについて、不明などがあれば適宜質問をするよう繰り返し伝えるなどし、質問がしやすい雰囲気を作成するとともに、質問とその回答を質問者以外にも参考になるよう共有し、必要に応じて質問や回答の背景などについても伝えるよう留意した。また受講生の間でエクセルスキル、既学習内容に差があったとしても本講義終了時には講義履修者として一体感を持てるよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

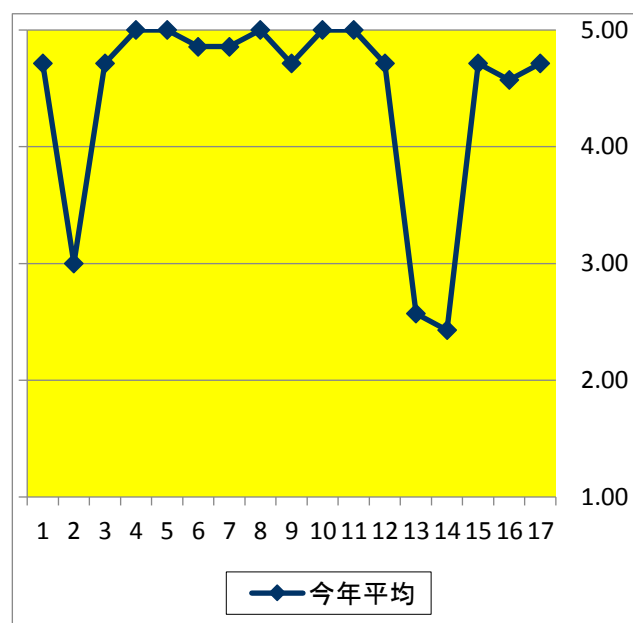
受講生間で講義中の進度に幅があることについて、引き続き全体で一定の進捗となるように丁寧に配慮し、時間を要している受講生には講師が個別にフォローするとともに、進度の早い受講生に対しては、少人数のグループ演習のメリットを活かし受講生間でも説明、フォローをすることで進度の早い受講生自身の理解をさらに深められるよう取り組む。講義内容に関する既学習内容、受講生の要望を把握して、応用・実践的な事例等の演習課題を課して各人の理解程度に応じて適宜質疑に応じるよう努める。講義中の質疑について、少人数のグループ演習と発表の機会を何度か設け、グループ内で既学習内容や受講姿勢が前向き・受け身の者を混在させることにより、受け身の者にも課題に積極的に関与しやすい形式で進めることで、受講生に一定の満足度が確保されたように見受けられることから、今後も継続していきたい。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、実践的な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応をしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き講義内容に関する既学習内容、エクセルスキルの程度を適宜把握して、可能な限り全体で一定の進捗となるように丁寧に配慮し、時間を要している受講生には講師が個別にフォローするとともに、進度の早い受講生に対しては、少人数のグループ演習のメリットを活かし受講生間でも説明、フォローをすることで進度の早い受講生自身の理解をさらに深められるよう取り組む。質問がしやすい雰囲気を作成するとともに、質問とその回答を質問者以外にも参考になるよう共有し、質問や回答の背景などについても伝えるよう取り組む。また、課題における事例の選定については、受講生が興味を持ちやすい事例、タイムリーな事例、実務上有用な事例などを中心に選定して講義を行うよう対応するとともに、今回受講生数が限られたことにより一部実施が困難であったグループワークの方法論についても、本講義終了時には講義履修者として一体感を持ちやすい方法をできるだけ取り入れるよう進めていきたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートタイズ＞（三島クラス）		
配当年次	2	開講時限	通隔月5
受講者数	8	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.71	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	4.86	5	5	4
7	—	4.86	5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.71	5	5	3
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.71	5	5	4
13	—	2.57	2	5	1
14	—	2.43	1・2・3	5	1
15	—	4.71	5	5	4
16	—	4.57	5	5	4
17	—	4.71	5	5	4
回答者数	—	7			



受講生の傾向

2年生のソリューション科目は、毎年人数にばらつきがあるが、今年度は8名ということで平均的な人数といえる。受講生の出席率は高いものであったが、コロナ禍の影響で少しの体調不良であっても休むことが必要であったため、全員がそろって授業を受けるということはあまり多くなかった。そういう状況ではあったが、受講生が出席している状況では、活発に議論が行われるなど、熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の授業はコロナ禍の中で行われ、受講生が密になることを避ける必要があったため、従来のソリューションの学習で行ってきたグループ学習は行わなかった。それゆえ、受講生一人一人と対話をする形式で授業を進めることとなったが、各自積極的に発言する場面があり、思ったよりも活発なソリューションとなった。なお、この授業は通年隔週で行われるものであるが、春学期に学術研究員であったため、秋に集中授業となった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

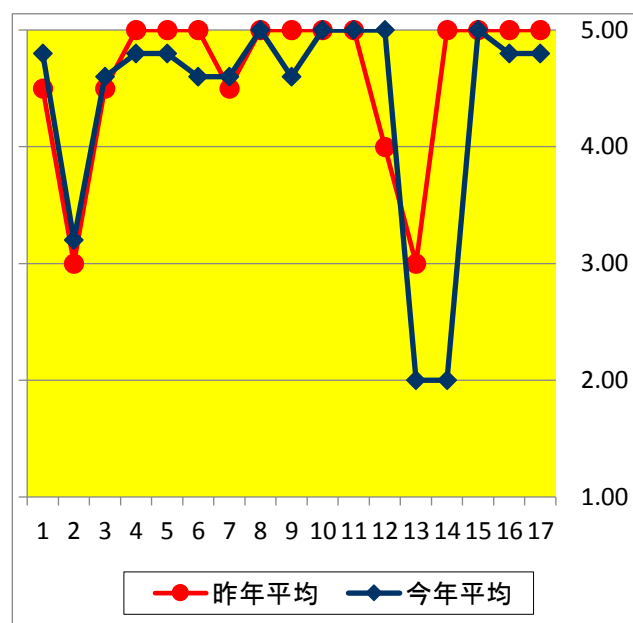
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は受講生全員が公認会計士志望であったため、その目的に沿った内容で授業を進めることができたが、今後はそのような状況とは限らず、公認会計士志望の受講生もいれば、その他法的な論文を執筆をすることができるようなことを目的とする受講生がいることも考えられる。さらには、受講生の学習レベル・進捗についてもばらつきがあることも考えられる。今後のソリューションの在り方とすれば、このような状況を踏まえ、臨機応変に対応するようにしたい。具体的には、受講生の学習目的やレベルによってクラス分け等も念頭に置く必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション ＜ソリューション・イン・エキスパートタイズ＞（松本クラス）			
配当年次	2	開講時限	通隔金5	
受講者数	5	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.80	5	5	4
2	3.00	3.20	3	4	3
3	4.50	4.60	5	5	4
4	5.00	4.80	5	5	4
5	5.00	4.80	5	5	4
6	5.00	4.60	5	5	4
7	4.50	4.60	5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	4.60	5	5	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.00	5.00	5	5	5
13	3.00	2.00	2	3	1
14	5.00	2.00	2	3	1
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	4.80	5	5	4
17	5.00	4.80	5	5	4
回答者数	2	5			



受講生の傾向

受講生の授業参加度（項目12）は非常に高く積極的な演習への参加が認められる。しかし演習のための予習時間（項目13）は減り、復習（項目14）時間も減少してしまっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の希望により監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行えるように、複数の課題を事前に配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

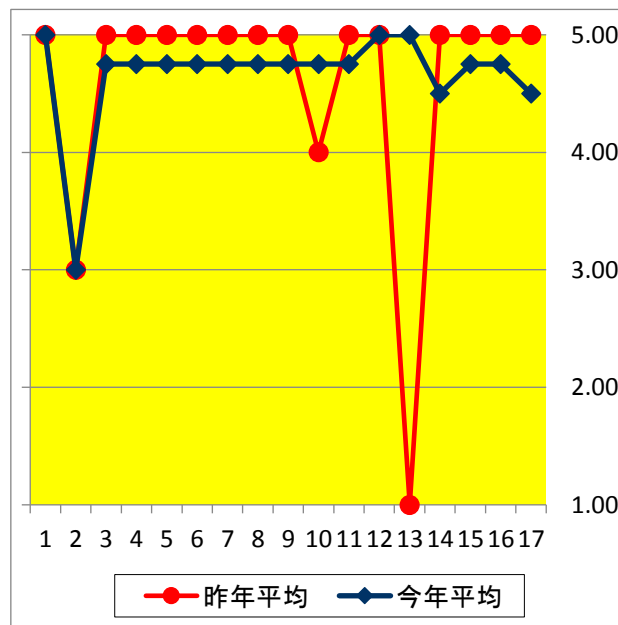
毎年、受講生の演習に求める希望内容が異なるため、演習開始前に予め希望を聴取しておく必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

記述指導を必要とする受講生について、演習中の課題への解答を添削指導するために別の機会を設けることで論文作成能力を高めるようにしたい

科 目	論文指導(実践) ＜論文指導・修士論文(実践)＞(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年月1
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	4.75	5	5	4
5	5.00	4.75	5	5	4
6	5.00	4.75	5	5	4
7	5.00	4.75	5	5	4
8	5.00	4.75	5	5	4
9	5.00	4.75	5	5	4
10	4.00	4.75	5	5	4
11	5.00	4.75	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.00	5.00	5	5	5
14	5.00	4.50	5	5	3
15	5.00	4.75	5	5	4
16	5.00	4.75	5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	1	4			



受講生の傾向

受講生は4名であり、1名が解釈論、3名がアメリカ法を参考にした立法論であった。質問No.13が示す通り、受講生は報告レジュメを必ず作成し、授業に臨んでくれた。その結果として、受講生3名は修論完成に至ったが、残念ながら1名は未完成となった。その原因は、修論テーマが11月中旬まで決まらなかったためであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

比較法研究を行う受講生への対応として、第一は、春学期から外書購読を兼ねた指導を行った点である(なお、1名は修論テーマが決まらず、購読する外書は変更していった)。第二は、秋学期から比較法部分の記述のための指導を加えた点である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

本大学院のカリキュラム上、受講者が比較法研究を採用した場合、外書購読の授業と同様の指導を授業内で実施せざるを得ない。当該指導は一定程度の時間を要することから、そのスタートが重要となる。できる限り、春学期の早い時点から実施できるよう取り進めたい。

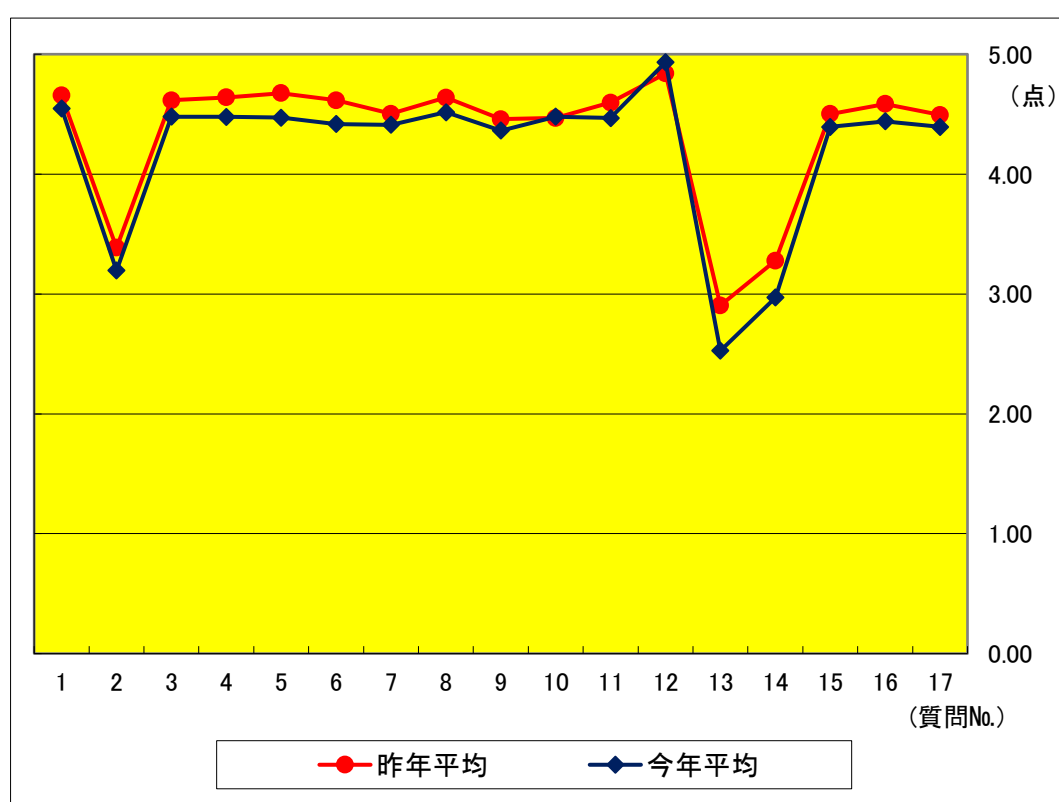
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度採用した比較法研究を行う受講生への対応は、1名を除き、有効であった。従って、次年度も春学期から外書購読の授業と同様の指導を行いたい。また、有効に機能しなかった1名を振り返ると、比較法研究の本格的な着手が秋学期以降となった場合、修論完成までの時間がどうしても不足する。比較法研究を採用する場合の注意点として、受講生には事前に周知しておきたい。

Ⅲ-(3). 2020 年度授業評価アンケート総括

総 括

質問No.	昨年平均	今年平均
1	4.66	4.55
2	3.39	3.20
3	4.62	4.48
4	4.64	4.48
5	4.67	4.47
6	4.62	4.42
7	4.50	4.41
8	4.64	4.52
9	4.46	4.36
10	4.47	4.48
11	4.60	4.47
12	4.84	4.93
13	2.90	2.53
14	3.28	2.97
15	4.50	4.39
16	4.59	4.44
17	4.49	4.39
回答者数	708	403



授業評価アンケートを分析した結果、関西大学会計専門職大学院における今年度(2020年度)の授業は、全体として受講生から高い評価を得たことが明らかになった。多くの項目では昨年度(2019年度)の評価からはわずかに低下しているが、今年度は新型コロナウイルス問題に伴って授業方法の大きな変更を余儀なくされたことを勘案すると、比較的高い評価を得たと考えられる。個別の質問項目の分析結果は以下の通りである。

質問項目1(授業内容と授業計画の整合性)に関する今年度の評価は平均4.55であり、昨年平均4.66をわずかに下回った。次に、質問項目2(授業の進度)に関する今年度の評価は平均3.20であり、昨年平均(3.39)よりも改善された。質問項目3(教員による授業準備)に関する今年度の評価は、平均4.48であり、昨年度平均(4.62)よりも低下した。したがって、授業計画と授業内容との整合性については、わずかな低下傾向がみられるが、授業進度に関する評価は昨年度よりも改善された。このことは、新型コロナウイルス問題に伴って学期中に遠隔授業に変更したにもかかわらず、受講者からは比較的高い評価を得たと考えられる。また、教員による授業準備も、受講生からの高い満足を引き出すことができた。

質問項目4(教員の熱意)に関する今年度の評価は平均4.48であった。また、質問項目5(教員の話し方)に関する今年度の平均は4.47であった。これらの評価も昨年度からわずかな減少が見られるが、全体としては十分に高い評価である。そのため、これらの評点で示された講義中における教員の熱意、および教員の説明に対する学生の満足度は、昨年度に引き続き安定して高いといえる。

質問項目6(教科書・配付資料の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.42であり、昨年度平均を若干下回った。質問項目7(機材利用の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.41であり、昨年度平均をわずかに下回った。したがって、今年度の授業方法の大幅な変更による評点の減少は、相対的に小さいことが明らかになった。そのため、全体としては教員が指定したテキスト、配付資料、および機材利用について、比較的高い評価が得られていることが明らかになった。

質問項目8(質問への対応)に関する今年度の評価は、平均4.52であった。質問項目9(宿題および小テストの効果)に関する本年度の評価は平均4.36であった。これらは、いずれも昨年平均を下回っているが、減少した程度はわずかであるため、受講生は教員による質問対応、および教員による宿題および小テストの実施に納得していると考えられる。また、質問項目10(クラス規模)に関する本年度の評価は、平均4.48であり、昨年度よりもわずかに上回った。

以上のアンケート結果と整合して、質問項目11(全体としての授業の満足度)に関する今年度の評価は平均4.47であり、昨年度平均からはわずかに減少しながらも、安定して高い評価を得た。したがって、教員による授業改善は、全体として問題が少ないと考えられる。

質問項目12(出席状況)に関する評点は平均4.93であった。したがって、受講生の出席率は、昨年度よりも若干改善した。また、質問項目13(予習)の回答は、今年度平均が2.53、および質問項目14(復習)の回答は今年度平均が2.97であった。したがって、遠隔授業によって受講生の出席状況に改善が見られた一方で、受講生による予習時間および復習時間は遠隔授業に伴ってかなり悪化したと解釈できる。本会計専門職大学院では24時間利用可能な自習室を備えているが、本年度の新型コロナウイルス問題に伴って利用機会が減少したことが原因の一つであると考えられる。

質問項目15(講義による触発)に関する今年度の評価は平均4.39であった。質問項目16(職業会計人としての知識の増加)に関する今年度の評価は平均4.44であった。さらに、質問項目17(全体としての授業の理解度)に関する今年度の評価は平均4.39であった。これらの評価結果は、いずれも昨年度を下回っているが、全体としては高いと考えられる。

以上のとおり、本年度は新型コロナウイルス問題に伴う授業方法の大幅な変更という困難に直面しながらも、本会計専門職大学院におけるFDの取り組みは概ね高い評価を得たといえる。次年度も本年度の取り組みを継続することが重要であると考えられる。

IV. 講演会

2020 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会

[2021 年 2 月 19 日(金)開催]

◇東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「コロナ危機と日本経済」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2021 年 3 月 22 日(月)開催]

◇ 有限責任あずさ監査法人

原田大輔氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化の中で果たす公認会計士の役割とやりがい」

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248